「ハーイ」一、二、三名か。「ハーイ」四十一名全員か――。
　最初からこれはなんだと思われたと思うが、これは中学一年生四十一名に「ハンドボールという競技を知っている者、手を上げなさい」という質問をしてみた結果である。

理事長登壇 ⑦

東京・大田区連盟理事長
相 原 一 矢
（東京学芸大ＯＢ）

それも男子だけである。後の四十一名の方は、バスケットボールとバレーボールについて同じ質問をしてみたのである。そうしたら全員の生徒が手を上げた、オリンピック種目にも復帰し、中学校指導要領にもバスケットとともに選択種目として組み入れられた今日、徐々にハンドボールという競技も認識されて来たと思うが、まだまだという感が強い。
　ハンドボールをこれから普及させるための、タマゴである中学生の現状はどうだろう。
　大田区においては、区大会などを開催しても昨年までは、なんと三校である。東京都全部たしても四十三校程度である。今年はどうだろうと……指導要領も改訂され、ハンドボールが選択種目ではあるが、一応教材として組み入れられた現在、加盟校が増加するのではなかろうかと、はかない期待をして……、たのしみに今年の蓋を開けて見たのだが増えた！三校も増えたのである。たったと思われるが、これが大田区のハンドボール界の現状であり、普及度であり、知名度であると思うー。それにもまして底辺を拡大するために一番大切なハンドボールを指導出来る人がいない。指導する人がいないという事である。私は、理事長などという肩書きであるが、私の本職は、中学校の保健体育の教師である。まだ教師になって三年目であるが、私が教師になった時から私の中学校では、男女とも全学年ハンドボールを教材として取り入れ指導して来たわけであるが、球技としての歴史も浅く、まだ教材としてのハンドボールの研究も不十分のため、ハンドボールを専門とされていない先生などは、バスケットの技術を少し取り入れて指導しているようである。私などは、学生時代クラブ等で行った事を整理して学年別に技術を区分して指導しているわけだが、少し心細くなることもある。そこで日本ハンドボール協会に対する希望であるが理論面、技術面においてハンドボールの特性を十分に生かして、経験した事もない人にも指導が十分に展開出来るような指導書を出して欲しい。
　中学校時代ハンドボールとは、関係なかった生徒が卒業し、高校に行ってからハンドボール部に入部し毎日練習に励んでいます。などという声を聞くと、ああ少しはハンドボールの普及上役立っているのだな、と思うことがある。
　一般の連盟加入チームは、まだ八チームにしかなっていない。社会人チーム、高校生五チームである。毎年春と秋に区民スポーツ大会を開催し、活動しているわけだが、今年は女子のチームも二チーム加入し、徐々に伸展して行く大田区ハンドボール連盟ですが、しかしまだまだ組織化されておらず、会社や仕事の関係で出場出来るチーム、出来ないチームが出来、大会当日になってやっとトーナメントが組めるチーム数が集まったという事もある。また試合日程が長くなると仕事等の関係で、練習も全員があつまることが出来ないため、一日に三試合、四試合もゲームをすることがある。また大会を盛り上げるために一チームから二チーム出場する事を許可した事もある。やはり社会人やクラブチームは、練習時間、場所に恵まれず仕事という大きな壁があり、ハンドボールに対して理解のある企業ならばよいのだが、大田区の加入チームは中小企業で、なかなか全員がそろって練習する時間、場所がない。これは、どこのチームでも同じ事だと思う。結局仕事が終ってから全員が集まり練習しようとすれば六時近くになってしまう、夏など日の長い時はよいのだが、冬などは平日まったく練習出来ない状態だと言う。これはハンドボールだけの事ではないのだが、区や都や国は、もっともっと社会的、大衆的なスポーツ施設を作るよう力を注いでもらいたい。それも会社が終って暗くなってから運動が出来るよう特に、ナイター設備をぜひ作って欲しい。
　現在大田区でも社会体育の分野で区の施設を一般開放しているのだが、なんと三ケ月以上も前に申し込まなくては使用出来ない。今年は、大田区連盟としては、「組織化」という事に力を入れ、縦の関係、横の関係を綿密にしよりハンドボールを発展させて行きたい。

「ハンドボール」6月号（第109号）目次

【表紙写真】沖縄特別国体準決勝大分―沖縄戦、沖縄の元気な攻撃（5月5日・コザ）
（撮影・山田真市）

ユーゴ（五輪優勝国）の今秋招待決まる

全日本などと6試合を予定

ミュンヘン・オリンピックの金メダル国ユーゴスラビアの今秋来日が正式に決まった――。日本協会は昨秋から、ユーゴスラビア・オリンピックチームの招へいについて同国協会と打合せを重ねて来たが5月1日、日本協会あて「日本の示す招待案をすべて承諾する」旨の公電が届いた。

日本協会がユーゴ側に示していた条件は「オリンピック優勝メンバー17名（役員3、選手14）を8月30日から9月10日まで招待、日本国内で6試合」というものでユーゴ側は当初20名の来日を希望するなどしており、日本案が通るか不安をもたれていた。

日本協会では5月19日の月例常務理事会で、ただちに具体的な活動を開始することとなり、荒川清美理事長を委員長とする実行委員会の発足を決めた。いっさいの正式発表は6月24日の全国理事会（大阪）後になる模様だが、現在の予定ではユーゴチームは8月29日来日、9月1日の第1戦を皮切りに9月9日までに6試合を行う。

ラインハウゼン（西ドイツ女子）も来日

日本協会は今秋9月、6年ぶりにヨーロッパからの女子チームとして西ドイツ「OSC・ラインハウゼン」を招くことに決めた。

同クラブは西ドイツ女子西部地域リーグに所属し、毎シーズン国内のベストエイトに数えられる強豪で9月13日来日、15日熊本での大洋デパート戦を皮切りに各地で4～5試合を行う。

日本側チームは現在のところいずれも単独実業団の予定で、全日本女子（世界選手権候補）との対戦については、なお研究する。

ヨーロッパから女子チームが来日するのは42年9月の「西ドイツ選抜」以来2度目のこと。

日本の不戦勝承認 世界女子出場国揃う

国際ハンドボール連盟（IHF）は5月8日バーゼル（スイス）で、今冬12月8日から15日までユーゴで開く第5回世界女子選手権の出場国と予選リーグ4組の組み分けを発表した。

それによると、韓国とアジア予選を義務づけられていた日本は、韓国の棄権で不戦勝―自動的出場を認められ、予選リーグB組で前回4位のシード国ルーマニア及びフランスの棄権で出場権を得たノルウエーと対戦することに決まった。日本の参加は第2回（昭37）以来連続4回目。

4月初めから各地で行われていた地域予選（ヨーロッパ5、アフリカ、アジア各1）の結果はまず順当で、初のアフリカ予選ギニア対コートジボアールはギニアが勝利を握った。

本大会は12月8、9、10日の3日間が予選リーグ、12、13日が準決勝リーグ、14、15日が順位決定（1～8位）戦の予定で、予選リーグ各組1、2位が準決勝リーグに進む。各組3位による9～12位決定戦については行うかどうか検討が進められる。

○……第5回世界女子選手権組み合せ……○

▽A組　ハンガリー、西ドイツ、チェコスロバキア
▽B組　ルーマニア、ノルウエー、日本
▽C組　東ドイツ、ポーランド、ソビエト
▽D組　ユーゴスラビア、デンマーク、ギニア

イスラエル、航空費の一部負担を考りよ……男子予選

日本協会・荒川理事長は5月19日の月例常務理事会で、第9回世界男子選手権アジア予選についてイスラエルとの交渉経過を中間報告、5月になってイスラエルから「日本チームの航空費一部負担を考慮する」という申し出のあったことを明らかにした。

4月上旬、東京における荒川理事長とS・ラルキン・イスラエル体協理事長の会談（＝本誌既報）では、両国とも「自国開催」をゆずらず、イスラエル側は「航空費の一部負担はできない」としていたものである。

日本協会ではイスラエルの新提案を改めて検討することになり、イスラエル遠征の場合、出場権を獲得したあとそのまま東ドイツの本大会へ乗りこめるよう、国際ハンドボール連盟（IHF）に、49年1月15日までと決められている予選期日の延伸を打診することも決めた。世界選手権（男）のアジア予選は初。日本、イスラエル以外はエントリーしていない。

新・全日本候補選手（男女）

6月末に発表のメド？

注目される男子コーチ陣

日本協会は5月19日の月例常務理事会で世界選手権——モントリオール・オリンピック（昭51）に備える男女ナショナルチームの編成ならびに強化について協議した。

その結果、女子は井薫全日本女子監督が6月中旬までに候補選手（人数未定）をリストアップ、そのあとNHK杯、全日本実業団での若干の追加があれば行い、そのメンバーで、7月9日から10日間、第1次強化合宿（名古屋市）を行うことにまとまった。

女子強化コーチは、井監督は「そのまま世界選手権のコーチとしたい」意向だが、いぜん日本体協からの補助額が未定のため、不確定要素が多く、荒川理事長—井監督でさらに検討を加えることとした。女子に比べ、男子は、ミュンヘンオリンピック以降、ナショナルチームに関しては、まったく動きがなく、わずかにジュニア・ナショナルが、3月東京で合宿を行った程度で、内外から「早期編成」の声が高まっていた。

日本協会は荒川・新体制が打ち出した強化委員会の初仕事としてこの問題に対処することを決めていたため、委員会スタッフの発表待ちであった。

この日の会議で、荒川理事長は強化委の人選が遅れ、時期的にもこれ以上引き伸ばせないとの判断から現在競技3部から推せんされている強化委員竹野奉昭（技術）、大西武三（普及指導）、綿貫敏雄（審判）3氏のほか若干名を加えて、「全日本候補選手選考委員会」を編成することの了承を求めた。

これに対し、一部の常務理事から「第一段階として監督またはコーチングスタッフを決めるべきだ」との意見が出され、ミュンヘン時の反省点でもあったことから、荒川理事長も善処を約した。

第1回の選考委員会は、日韓学生交流（6月6～10日、韓国）の前後と予想され、ここで、候補選手選考について具体案がねられるだろうが、少くとも6月内にはメドがつきそうである。選考委員会の顔ぶれは既に決定の3氏（前掲）以外は理事長に一任され6月早々発表される。

なお、女子の世界選手権（12月（ユーゴ）への派遣人数、男子の世界選手権アジア予選（対イスラエル、詳細未定）への参加人数はいっさい未定。

なおいくつかの曲折？

＜解説＞強化委員会のスタートが遅れているため、荒川理事長は選考委員会を特別編成して男女とも新しい視点に立った全日本候補選手の選出をすることでこの場を乗り切る策に出た。

この間の事情はどうあれ、女子についてはアジア予選流会以来、男子については、オリンピック終了から8ケ月ぶりの〝動き〟であり、多くの注目が集ろう。

新・全日本への見通しはたったというものの、なおいくつかの曲折が予想される。

監督の決まっている女子はともかく、男子は特に波乱ぶくみだ。

柱となる監督、コーチングスタッフがまったくの白紙では、選考委員会としても方向が定まらぬだろうし、常務理事会の空気は「監督またはコーチングスタッフを選考委員会で選び、選手のリストアップはそのスタッフで……」とも受けとられた。

また、新編成の全日本が目先の世界選手権だけのものなのか、モントリオールにつながるものなのかという路線も定まっていない。

強化委員会は結局、男女コーチングスタッフが出揃ったところでそのメンバーとする公算が強まった。（X）

日韓高校交歓競技会
女子の実施決まる

日本体協はこのほど韓国体協との話し合いで、今夏8月の第6回日韓高校スポーツ交歓競技会に女子ハンドボールを追加することに決めた。高校女子の日韓交流は初めて。試合は男女とも8月18、20日の両日駒沢屋内競技場で行われるが、日本側の代表校は第24回全日本高校選手権優勝校と東京都代表校の予定。

韓国遠征の全日本学生
男女とも5試合

全日本学連は韓国遠征選手団（役員7、選手28＝男女各14）の団長に藤松博氏（日本協会理事、全日本学連理事、東海学連理事長、名工大出）を決めた。また、春季リーグで負傷した白柳進（大体大）選手に代って柳隆司（法大4年）選手が参加。一行は6日出発。

—6月24日、大阪で理事会—

日本協会は6月24日午前10時から大阪市中央体育館会議室で全国理事会を開くことに決めた。近く招集される。

沖縄健斗して3位

~本土復帰記念特別国体~

熊本(熊本女商)が逆転優勝

若夏の沖縄に友好の輪を拡げる〝沖縄特別国体〟ハンドボール競技は5月4日から6日までの3日間、新設のコザ市営体育館に、全国6地域から推せんの7校と地元代表が参加してトーナメントで行われた。

シーズン早々のビッグゲームとあって各校とも緊張気味だったが、熱心な地元ファンの声援に応えて熱戦を展開、予想どおり熊本(熊本女商)—大分(大分東)の優勝争いから熊本の快勝で幕を閉じた。強化にはげんでいた沖縄は3位鳥取の高校女子の全国大会登場は初めてであった。

熊本、大分強味示す

▽1回戦(=準々決勝)

長野(小諸商) 13 (7—4, 6—2) 6 神奈川(全神奈川)

得	【長野】		【神奈川】	得
0	土屋	GK	柳井	0
		GK	斎藤	0
0	小山美	FP	大江	0
4	小山真		内田	0
0	掛川		槇山	0
3	新井		広崎	2
6	小田切		小浜	0
0	阿久津		比嘉	0
0	土屋		藤井	3
0	塩川		遠藤	1
0	山浦		吉田	0
0	木内			
13	(1)	7MT	(0)	6

(審・日野・儀間)

熊本(熊本女商) 12 (7—1, 5—1) 2 福島(全福島)

得	【熊本】		【福島】	得
0	丸山	GK	池田	0
0	尾上	GK	結城	0
1	室村	FP	遠藤	0
0	畑田世		佐藤	0
3	根岸		丹野	0
2	橋本		島田	0
1	畑田真		福升	0
4	磯崎		上妻	0
1	東島		仲本	0
0	伊東		本郷	0
0	関本		鈴木	2
12	(2)	7MT	(0)	2

(審・安次富・新垣)

大分(大分東) 21 (10—6, 11—1) 7 奈良(選抜)

得	【大分】		【奈良】	得
0	上野	GK	中西	0
		GK	山田	0
5	村上	FP	阪本	1
8	紀野		今津	3
2	宮田		宮前	0
1	藤野		白樫	2
0	滝川		松原	0
0	多々良		河合	1
0	薬師寺		東	0
3	古野		木全	0
0	奈須		三浦	0
2	吉田			
21	(0)	7MT	(0)	7

(審・大城・新里)

沖縄(選抜) 18 (11—1, 7—2) 3 鳥取(選抜)

得	【沖縄】		【鳥取】	得
0	大見	GK	石田	0
0	神山	GK	山本	0
3	仲間	FP	椿	0
2	城間		田中	0
6	具志		湯本	3
4	宮平		宮川	0
2	藤山		玉川	0
0	大城		近藤	0
0	稲福		谷原	0
1	長嶺		稲吉	0
0	前城		西川	0
18	(1)	7MT	(0)	3

(審・日野・宮城)

○…各試合とも力の差がはっきりあらわれ、後半に入るとほとんど一方的な経過をたどった。わずかに大分×奈良が、後半開始直後まで小ぜりあいを演じたが、それもすぐに点差が拡がってしまった。注目の沖縄は小粒ながら全員がムラのない得点力をもち鳥取を圧倒、地元の声援に応えた。

沖縄、反撃遅し
長野も熊本に惜敗

▽準決勝

熊本 12 (5—2, 7—5) 7 長野

得	【熊本】		【長野】	得
0	丸山	GK	土屋	0
0	尾上	GK		
1	室村	FP	小山美	2
1	畑田世		小山真	2
5	根岸		掛川	0
3	橋本		新井	1
1	畑田真		小田切	2
1	磯崎		阿久津	0
0	東島		土屋	0
0	伊東		塩川	0
0	関本		山浦	0
			木内	0
12	(4)	7MT	(0)	7

(審・新垣・儀間)

○…前半、熊本は長野の固いデイフエンスをくずすことができず長野は立ちあがりいきなり奪った2点を守って13分までリードした。

しかし熊本はなかなかばすぎから鋭い切りこみで相手陣内に入り7MTを誘い、そのつど根岸がていねいに決めて15分には3—2と逆転、ペースをつかんだ。

後半は熊本が速攻から3本つづけてロングを決め10分には11—4と開いた。長野は残り3分から2点を返すなど粘ったが、結局、要所で課せられた7MT4本がひびいて敗れた。（安次富）

大分 16 (9—5, 7—5) 10 沖縄

得	【大分】		【沖縄】	得
0	上里	GK	大見	0
		GK	神山	0
2	村上	FP	仲間	0
6	紀野		城間	4
3	宮田		具志	1
0	藤野		宮平	4
0	滝川		藤山	1
0	多々良		大城	0
0	薬師寺		稲福	0
5	古野		長嶺	0
0	奈須		前城	0
0	吉田			
16	(4)	7MT	(0)	10

(審・日野・宮城)

○…沖縄は15分まで4—5とせりあうみごとな試合ぶりだったが、そのあと大分の速攻についていけず徐々に点差を開かれていったのが敗因だった。

大分は相手の拙攻からマイボールを得るとすばやい攻撃をしかけ沖縄デイフエンスを乱してはポイントした。

沖縄は鳥取戦で見せたようなスムースなパスワークがなく、パスミス、キャッチミスも目立ったのは残念であった。（新垣）

沖縄、長野おさえ3位

▽3位決定戦

沖縄 14 (6—5, 8—7) 12 長野

○…前半15分までは長野のペースで進んだが、そのあと沖縄はロング、ポストを使い分けて16分仲間で同点、18分宮平のゲットで6—5と逆転した。

沖縄は後半2分7MT（城間）で2点差をつけたが、長野も新井小田切の連続得点で6分7—7とし盛りあげた。しかし、沖縄はそのあと2本の7MTで再びリード長野を振り切った。（安次富）

大分、前半のリード空し

▽決勝

熊本 12 (5—6, 7—3) 9 大分

得	【熊本】		【大分】	得
0	丸山	GK	上野	0
0	尾上	GK		
2	室村	FP	村上	0
1	畑田世		紀野	4
3	根岸		宮田	4
4	橋本		藤野	0
0	畑田真		滝川	0
2	磯崎		多々良	0
0	東島		薬師寺	0
0	伊東		古野	1
0	関本		奈須	0
			吉田	0
12	(1)	7MT	(1)	9

(審・新垣・儀間)

○…白熱した好試合だったが、残り6分からみせた熊本の底力が大分を制した。立ちあがりは熊本が優勢、10分4—1とリードしたが、大分は紀野、宮田で追いあげハーフタイム寸前の7MT(紀野)で6—5と逆に優位に立った。

後半も熊本の滑りだしはよく6分8—7と再びリードを奪ったが大分も11分古野、13分紀野で9—8と逆転、場内をわかせた。

しかし熊本はすぐ9—9と並びそのあと一気に3ゴールを加え、大分をつきはなした。（大城）

若夏国体報告

安藤純光

沖縄復帰特別国民体育大会「若夏国体」は去る5月3日の開会式から4・5・6日の4日間にわたって開催された。周知の通り戦後20数年にわたる不遇な状態から昨年5月15日日本に復帰し、やがて一周年を迎える日本最南端の沖縄県における記念すべきスポーツの祭典であった。

ハンドボール競技が行なわれたコザ市営体育館は、今国体のために新設されたものであり、よくできた立派な体育館であった。なによりも選手および運営者をよろこばせたことは、この体育館がハンドボール競技の専用会場であったことであった。沖縄の雨期は早く期間中も朝夕降雨にみまわれたが競技の進行には何の心配もなかったことである。

競技に先だって行なわれた開始式について復帰前日本協会理事として沖縄県におけるハンドボール競技の普及発展に大きな功績のあった沖縄県理事長平件孝栄氏に対し日本ハンドボール協会および高等学校体育連盟からの表彰が行なわれた。

さて「若夏国体」ハンドボール競技は女子高体8チームの参加を得て神奈川県（全神奈川）対長野県（小諸商業高校）の対戦で幕をあけた。

地元沖縄は一回戦に鳥取選抜チームと対戦、地元の声援と期待にこたえて18対3と大差をつけて準決勝戦に進出したが強敵大分県大分東高（九州選抜高校生大会優勝）に前半7－5、後半7－5、16－10と敗れた。3位決定戦において巧者小諸商業高と対戦、接戦の末14－12と小諸商業高をくだして3位の座についた。

決勝戦では、全福島、小諸商業を破った熊本商業高と大分東高の対戦となった。決勝戦にふさわしいゲーム展開であったが、熊本は前半の劣勢を後半に逆転12対9と勝利をにぎった。

本大会審判員は沖縄より3ペアーと九州ブロック審判部長日野氏があたった。各審判員は、当然のこととはいえ、実に誠心誠意の審判ぶりであった。プレイヤーも監督諸氏も充分になっとくのゆく審判ぶりであったと思う。

最後に大会の運営にあたられた沖縄県ハンドボール協会の諸氏、開催地であるコザ市の方々の献身的なご協力に対して深く感謝し、沖縄県ハンドボール協会のますますのご発展を祈って報告にかえる。

（日本協会審判部長）

第3術科校（海上下総）が初優勝

第5回全日本自衛隊選手権は5月24日から26日まで東京・駒沢第2球技場（26日のみ駒沢体育館）に全国13都県から28チームが参加して開かれた。

前年度の上位4チームをシード、残り24チームによる予選トーナメントは、質量とも着実な発展を裏付ける試合展開となり、海上・第4航空群（千葉）ら4チームが決勝トーナメントへの出場権を得た。

4強を加えたベスト8による決勝トーナメントは〝全国大会〟と呼ぶにふさわしい好内容の試合がつづいたが、結局、海上第三術科学校（千葉）が陸上勝田（茨城）を退け初優勝した。

また、一昨年から行われているオープンの女子トーナメントは東京勢4チームによって日本協会長杯を争い高等看護学院が勝った。

全日本自衛隊選手権

◇予選トーナメント・1回戦

神町（陸・山形）15（6—3／9—2）5 立川（陸・東京）

霞ケ浦（陸・茨城）24（10—3／14—3）6 体校（陸）学生（東京）

施設教導大隊（陸・茨城）12（6—3／6—5）7 第一通信大隊（陸・東京）

下志津（陸・千葉）19（10—3／9—4）7 滝ケ原（陸・静岡）

高田（陸・新潟）20（8—0／12—2）2 需品教導隊（陸・千葉）

古河（陸・茨城）8（4—4／4—3）7 久里浜（陸・神奈川）

宇都宮（陸・栃木）16（7—6／9—0）6 第一武器隊（陸・東京）

21航空群（海・千葉）21（10—5／11—4）9 放射線技師養成所（東京）

大湊航空隊（海・青森）18（8—2／8—4）6 体校（海空）学生（東京）

釧路（陸・北海道）×新町（陸・群馬）は両者棄権。

○……実力差がはっきりした中で古河×久里浜は後半5分まで典型的なシーソーゲーム。古河は5—5のあと後半10分から斎藤の連続ゴールと吉田のゲットで3点差をつけ、西田を中心に追いこむ久里浜の反撃をかわした。

施設教導大隊×第一通信大隊は後半開始直後、第一が2点をあげて1点差としもつれるかにみえたが、施設はすぐに立ちなおり連続4ゴールで安全圏に入った。

宇都宮×第一武器隊は前半なかば第一が4—2とリードする場面もあったが、地力に優る宇都宮はあわてず逆転、後半は石川の活躍で第一を突き放した。

高田、富士を破る

▽同2回戦

霞ケ浦 11（5—3／6—6）9 神町

下志津 12（5—3／7—3）6 施設教導大隊

高田 18（8—4／10—7）11 富士（陸・静岡）

相馬ケ原（陸・群馬）10（3—2／7—3）5 朝霞（陸・東京）

宇都宮 17（11—5／6—3）8 古河

第4航空群（海・千葉）12（5—7／7—2）9 第2航空群（海・青森）

大湊 15（8—3／7—7）10 21航空群

少年工科学校（陸・神奈川） 不戦勝

○……第4航空群×第2航空群は第2が前半5分をすぎてから波にのった攻撃で矢次ばやに得点を重ねたが、第4は後半3分7—7の同点から6分には逆に1点をリードした。7分いったんタイ（8—8）とされたが、8分安戸、9分六ツ石で再び優位に立ち、1点差に迫られた終盤、ダメ押しの2ゴールで第4が押し切った。

霞ケ浦×神町は後半7分4—10とリードされた神町がそのあと猛反撃し残り4分で9—11まで詰めたが、結局霞ケ浦が前半の2点差を守り切った。神町は立ちあがり2—0とリードするなど好調だっただけに惜しい試合といえた。

好カードとみられた高田×富士は、高田が前半6分すぎからペースをつかみ全員ムラのない得点力と多彩な攻撃で富士を制した。

第4航空群ら勝ち進む

▽同3回戦（決勝トーナメント進出チーム決定戦）

少年工科学校 14（8—4／6—5）9 霞ケ浦

相鳥ケ原 9（4—1／5—4）5 下志津

宇都宮 14（8—9／6—4）13 高田

第4航空群 14（6—5／8—2）7 大湊

○……実力伯仲とみられた宇都宮×高田はさすがに好試合。宇都宮の先行を高田が盛り返し1点を逆にリードして前半を終了。後半になると宇都宮が再び盛り返し同点のあと一進一退、宇都宮は12分三浦のゲットで14—12とし、その後の高田の反撃を1点におさえて逃げ切った。宇都宮の勝因の一つにGK木下の堅守があげられる。

シードチーム貫録示す

◇決勝トーナメント・1回戦（＝準々決勝）

第1航空群（海・鹿児島）18（9—4／9—6）10 少年工科学校

○……少生工科は1分巻島のゲットで先制する好調なスタートだったが、第一は自信たっぷりの試合運びで、3分以降10分までに中水流（全日本ジュニア）、中一、沢山らが鋭いシュートを放ち連続7ゴール、主導権をがっちり握った。

第3術科学校（海・千葉）21（9—3／12—1）4 相馬ケ原

○……実力差がかなりあった。三術校は奥原の好配球から三浦、横山、平野が波状攻撃をしかけ、相馬ケ原は散発的に得点したにとどまった。

佐世保地方隊（海・長崎）15（8—1／7—5）6 宇都宮

○……力をあげている同士の対戦とあって注目を集めたが、佐世保が一方的に得点をあげ、前半で大差がついてしまった。

宇都宮はチームプレーなどなかなかしっかりしていたが、佐世保のディフェンスを破るだけのスピードに欠け、練習量がスコアにあらわれたともいえる。

勝田（陸・茨城）14（7—4／7—4）8 第4航空群

○……4空群の善戦だった。勝田は11分4—1とはなしペースをつかんだかにみえたが、4空群は粘り、後半5分まで2—3点差で食いついた。しかし勝田は6分平山6分鳥海で10—5としてようやく余裕をもてた。4空群はあと一息プレーにスピードが欲しい。

▽準決勝

第3術科学校 18（7−9, 11−7）16 第一航空群

得	【第三】		【第一】	得
0	田上	GK	松岡	0
0	高城	GK	田中	0
5	三浦	FP	中一	0
3	西田	FP	中水流	7
1	末崎	FP	松尾	0
5	平野	FP	下村	2
0	横山	FP	立野	0
0	鈴木	FP	町田	2
4	奥原	FP	沢山	5
0	柿崎	FP	松岡昭	0
0	荒蒔	FP	永井保	0
0	佐藤	FP	二川	0
18	（1）	7MT	（0）	16

◇……前半10分2−2のあと第一は沢山、中水流、町田などの活躍で15分8−3と開いたが、三術校はひるまず着実にポイント、この地味な粘りが後半の大逆転につながった。

2点を追う後半、三術校は2分平野、3分三浦で9−9としたあと、3分30秒西田で逆転、そのあと2ゴールとたたみかけた。この間わずかに4分、第一は相手のリズムを崩す策をとるべきだった。

先行した三術校は相手のエース中水流をマン・ツウ・マンでマークするなど守りでも巧い運びをみせ16分には16−10とリード、終盤の第一の反撃をかわして、前年のチャンピオンを破る殊勲となった。

第一は後半16分間1点という貧攻が結果的には大きくひびいた。（杉山）

勝田 12（4−3, 8−5）8 佐世保

得	【勝田】		【佐世保】	得
0	柳林	GK	丸田	0
0	栗原	GK	谷口	0
3	日高	FP	土橋	0
0	関島	FP	弥水	0
1	平山	FP	佐藤	2
0	増田	FP	上之園	2
2	小松	FP	長谷	1
0	鳥海	FP	友末	3
6	額賀	FP	山口	0
		FP	大塚	0
		FP	田中	0
12	（3）	7MT	（0）	8

○……両チームとも動きが固く前半はさっぱり盛りあがらなかったが、後半7分佐世保が5−5としたあたりから、にわかに活気づいた。このあとは上り調子の佐世保有利かとみられたが、勝田はショートパスをつなぐかく乱戦法で佐世保のデイフェンスを襲い、3本の7MTを誘って、相手の先行を許さなかったのは巧い。

佐世保はせっかく同点としながら守りが雑で、だいじなところで7MTを課せられ自滅してしまった。（杉山）

▽決勝

第3術科学校 19（8−8, 8−8 : 1−0, 2−2）18 勝田

得	【勝田】		【第三】	得
0	柳林	GK	田上	0
0	栗原	GK	高城	0
1	平山	FP	平野	7
3	小松	FP	末崎	0
0	増田	FP	奥原	3
0	鳥海	FP	横山	2
4	日高	FP	鈴木	0
3	関島	FP	三浦	6
7	額賀	FP	西田	1
0	高岡	FP	荒蒔	0
		FP	佐藤	0
18	（1）	7MT	（1）	19

（審・勝 西村）

○……さすがに決勝戦、緊迫した好試合だった。互角の戦況から勝田が後半はじめわずかに押し気味で試合を進めたが、第三も大きくはなされず22分三浦で15−15と追いついた。勝田は23分小松のゲットで16−15、勝負を決めたとみえたが、第三はタイムアップ（25分ハーフ）寸前、奥原が起死回生のシュートを決め土たん場で振り出しへ戻した。

延長後は平野の活躍で第三が先手をとる展開となったが、勝田は後半額賀、日高で18−18、再延長かとみられた4分西田が劇的な決勝ゴールをあげ初優勝、海上勢はがっちり〝王座〟を守り、勝田の奪還はならなかった。

ともによく訓れんされたチームで内容も豊か、自衛隊上位のレベルアップを強く印象づけた。（西村亮治審判員）

〃〃〃〃 奥原選手、一人だけの2連勝 〃〃〃〃

□……男子で初栄冠に輝いた海上第3術科学校（千葉）は、今秋の国体に備える候補チームとあって洗れんされた攻守を誇ったが、ゲームメーカーとして活躍した奥原強之選手のホームチームは実は前回優勝の第1航空群（鹿児島）。プログラムにもそのとおり登録されていたが、同選手は、最近になり第3術科学校へ技術習得のため入校。「自衛隊球界ではよくあるケース」（富永全日本自衛隊連理事長）で第3からの登場が前日に認められた。

□……準決勝で顔を合せた第3と第1は今大会最高の好内容、奥原選手は要所で4ゴールして、勝利の原動力となった。

富永理事長の話だと「経験者が異動で各地に散りそれが普及に役立っている。今ではサッカー以上のチーム数だ」という。

借りずまいで本家の連覇の野望を阻んだのは皮肉だが「一人だけの2連覇」奥原選手の〝快記録〟も自衛隊ならではの話である。

女子は高等看護学院が2連勝

◇女子・準決勝（＝1回戦）

朝霞ワック（東京） 9（5−2, 4−1）3 中央病院（東京）

高等看護学院（東京） 10（6−1, 4−1）2 婦人教育隊（東京）

▽同決勝

高等看護学院 4（2−1, 2−2）3 朝霊ワック

得	【朝霞】		【高看】	得
0	堀内	GK	落合	0
1	清田	FP	佐藤	1
0	喜多	FP	渡辺	1
1	金水	FP	沼倉	1
0	川島	FP	大塚	1
1	十時	FP	内堀	0
0	植木	FP	所	0
0	乾	FP	山川	0
0	槌田	FP		
0	志柿	FP		
0	太田	FP		
3	（0）	7MT	（0）	4

（審・藤原 福井）

〃〃〃〃 花そえた女性レフェリー 〃〃〃〃

柳さんと田添さん

□……男くささの自衛隊大会にワックやナースによる女子の部（オープン）が花をそえはじめたのは2年前からだが、今年は新たに女性レフェリーも登場、話題をさらった。

女子・準決勝高等看護学院×婦人教育隊戦を担当した柳みつ子さん、田添光子さん（ともに三曹）のペアで、もちろん日本協会審判部のライセンス（D級）をもっている。

□……二人とも、去年までは選手で出場、若手に第一線をゆずった今年は、審判員として参加するため、〝練習〟をつんできたというのだからたいしたものだ。

判定態度や二人の呼吸など堂々としており、オープンとはいえ〝全国〟大会に史上初めてデビューした女性レフェリーの評判は上々。「警告」を宜した場面ではスタンドが一斉に拍手。

「試合よりも、緊張している時間が長いので疲れる。でも楽しいですわ」——男ものの審判着で汗をぬぐうその袖のカゲに、明かるく健康なスポーツウーマンの顔があった。

歴代優勝チーム（男子）

①（昭44）勝田施設学校・陸
②（昭45）防衛大学校・特
③（昭46）勝田施設学校・陸
④（昭47）第一航空群・海

新しい流れへの提案（完）

国体は〝愛好者〟に開放を

神奈川　K・S生

国民体育大会（ハンドボール）について私見を述べさせていただきます。

最近、機関誌でも国民体育大会に関する意見が出され、特に一般男女の参加チームについては日本ハンドボール協会でも、その意向がなかなかまとまらないように推測されますが、この点、私は議論の余地ないほど「結論」ははっきりしていると思います。

すなはち、国体の一般はあくまで競技力ー勝負を競うのではなく底辺の人とチームに開放されるべきだ、との一言につきるからであります。

実業団チームが我れさきにと、国体への道を争い、一般愛好者を押しのけている現状を、日本協会関係者が無策のまま放置していることに以前から私は憤りを感じてさえいました。

もともと、国体の得点争いそのものがナンセンスであり、度をすぎた地元県の強化策が、いっそうこの無意味な競争をあおりすぎ、一般愛好者よりも〝選手〟が重視され、順位に目の色をかえるような誤った方向にもっていかれているのが、最大の〝病根〟なのだと思いますが、やはり、どこかの県、どこかの競技が、勇気をもってこの弊を取り去らねば、いつまでも国体は「曲り角」「曲り角」という批判のみに終始し年を重ねるばかりでしょう。

そこで、まずハンドボールから一般を愛好者に開放し、スポーツ界をあっといわせて欲しいのです。

実業団の有力チームを締め出しては、その県のポイントがさがり強いては、その県に於けるハンドボールの位置（評価）も下がる、というのが実業団を捨て切れぬいちばん大きな理由と聞いていますが、なんと量見のせまい話でしょうか。

国体の主催者でもあり、社会体育をスローガンの一つにかかげているといわれる日本体育協会の指導も充分ではないと思いますが、やはりこれは競技団体の考えひとつでどうにでもなるのではありませんか。各県スポーツ界にしてもいまの考えかたが正しいとは思っておられないハズです。

例えば、とびぬけた強いチームが一チームだけしかないのと、実力はそれほどではないにしろチーム数が十を越しているのとではどちらに〝天皇杯〟を与えるのが国体の主旨にのっとっているか、他言を要さないのです。

この引例は、極言のようにみえますが、ハンドボールの場合、これに酷似したケースがあまりにも多いのです。

特に一般女子は、実業団があるがため、OGのクラブは姿を消す一方です。私は自分でデーターをもちませんが、大洋デパートのいる熊本県、田村紡のいる三重県、ブラザー工業のいる愛知県、日本ビクターのいる茨城県、大崎電気のいる埼玉県、東京重機の東京都などにいったいいくつの一般女子クラブが活動しているか、機関誌で発表して欲しいものです。

わずか一チームの実業団のため（頂点の、いわゆるナショナルチームは実業団の存在によって多大な功績と特色がありますが―）いくつものクラブが開店休業してしまう愚に、日本ハンドボール協会はなぜ気がつかないのですか。

そうした傾向に歯止めをせず、それでいて〝底辺拡大〟〝市民スポーツへの侵透〟とは、やはり虫がよすぎると思います。

日本ハンドボール協会の財政は苦しいと伝えられ、クラブの全国大会開催も難しいようです。それならなおさら、国民体育大会を一般愛好者のチームーせっかく「クラブの基準」もできたのですからーのために開放されるよう強く提案します。

国体の高校の部についても提言を試みます。数年前から国体高校の部は単独校に限定せず、混成チームの出場が認められ、大変結構な施策だと思いました。ところが、大会出場チームは単独、混成が半々のようでいっそ、ここらで単独の代表は認めない方向へ持っていったらどうでしょう。インター・ハイは今夏から各県一校となり、ますます本大会出場への夢がかなえられない高校生たちが増えることになります。国体を混成に限定すれば、夏のインター・ハイに涙をのんだ有能な高校選手にも陽が当るのではありませんか。

規定で成文化する前に各県協会がつとめて単独をさけ混成をつくる努力を期待したいものです。

106号から4回にわたり連載した読者原稿「新しい流れへの提案」は本号で完結します。今後は常設の「明日への提言」（600字以内）に御投稿下さい。（編集部）

本誌恒例アンケート特集

全国有力85チームの新陣容

ミュンヘン・オリンピック後最初のシーズンが幕をあけた。
日本協会は、すでに新しい頂点強化の目標に向かってすべり出し、そのスローガンに第一線層の拡充が掲げられている。
本誌では、恒例の新シーズン戦力展望を今年も全国のトップクラス115チーム（編集部・選）にアンケート、回答のあった85チームの陣容を特集した。

◇男子 （ABC順）

上段は今シーズンの主戦メンバー。KはGK、FはFP数字は身長(cm)。下段は新入選手。( )内は出身校など。

青森ク（青森）

K小野 170
F田辺 178
山上 177
辻村 180
寺沢 178
長村 179
高橋 181

安倍(明大)
鳴海(青森商高)
工藤(青森東高)

セントラル自動車（神奈川）

K片桐 176
F羽毛田 169
加藤 176
吉沢 180
吉田 171
布施 176
渡辺 170

木村(鹿町工高)
田口(〃)

千葉教員（千葉）

K吉田 179
F笠原 166
八尋 165
佐藤 168
岩下 170
松 176
氷海 180

浅原(日体大)

中京大（愛知）

K福井 180
F小川 182
成田 180
夏目 181
梶村 176
布垣 175
岸見 184

千田(中京高)
小島(〃)
後藤(〃)
村上(名南工)
木村(添上高)
新工(〃)
西脇(大垣高)
津村(報徳高)
高田(成蹊高)
盛山

中央大（東京）

K吉近充 172
(山田 177)
F村田 172
今関 172
山村 174
上村 178
松本 172
佐野 170

蒲生(中大付高)
関(笠間高)
西窪(隼人工高)
中村(小倉西高)
坪子(中大付高)
大林(〃)
金沢(笠間高)
吉近正(秋川高)

中央大学附属高（東京）

〜前年度全日本高校選手権優勝校〜

K松下 171
F佐藤 178
竹内 178
浦野 173
安 168
森 176
和智 170

大同製鋼（愛知）

K柳川清 176
F野田 168
藤中 178
加藤 183
松原 181
中井 181
花輪 178
(柳川実 176)

花輪(中央大)
清崎(熊本市商)
原田(隼人工高)
大園(有明高)
柳町(坂城高)
中本(安ケ庄高)
小野(小牧工高)
吉成(馬頭高)
桑幡(栗野工高)

同志社大（京都）

K高橋 178
F牧野 174
横川 177
入江 172
上田 180
大庭 180
松井 173

浅沼(天城高)
古川(小杉高)
金田(伏見工高)
中尾(郡山高)
東(同志社高)
滝本(岩国高)

福島大（福島）

K守谷 179
F野地 172
堀合 170
内藤 170
須藤 175
村松 177
藍原 174

根本(福島高)
細川(古川高)
石垣(静岡市高)
熊谷(福島高)
佐々木(仙台高)
鈴木(高田高)
保角(新庄北高)
山崎(仙台二高)
渡部(静岡高)

函館有斗OB（北海道）

K上田 173
F川村 168
佐藤 177
三浦 178
前 172
大橋 178
戸来 177

保坂, 西田, 竹谷
八木, 沢谷, 新谷
福井, 星野, 阿相
桝田
(いずれも函館有斗高)

日立製作所茨城（茨城）

K佐藤敏 172
F笹本 170
世田 165
湯浅 170
松塚 173
小林 167
三瓶 165

佐藤誠（塩釜高）

北海道大（北海道）

K畑中 172
F磯野 166
伊藤 168
矢橋 168
加藤 171
高橋 178
叶井 165

西沢(函館中部)
奥村(釧路湖陵)
横山(〃)
松本(国立高)

本田技研鈴鹿（三重）

K戸田 179
F佐藤 179
新実 180
田上 177
長谷川 175
末岡 171
勝田 171

田上(法大)
長谷川(〃)
高木(岩国工高)
新野(中京高)
荒木(都島工高)

法政大（東京）

K柴田 187
F柳 177
長谷川 176
川島 176
井手 170
上滝 176
村田 175

植原(富岡高)
辻(小倉西高)
角(氷見高)
橋本(小岩高)
庄司(新宮高)
小山(明星高)

茨城教員（茨城）

K大村 180
F大川 170
塚田 170
池田 184
高野 180
松金 178
立原 175

高野(日体大)
池田(〃)
松金(日大)
大村
(元・山梨教員)

岩手教員ク（岩手）

K砂子田 170
F谷藤 170
熊沢 170
千葉 170
石川 178
田村 176
村上 175

村上（日体大）

海上自衛隊第一航空群（鹿児島）

- K松岡 180
- F中一 170
- 中水流 173
- 松尾 169
- 下村 168
- 斎藤 168
- 埒 170

- 埒（粟野工）
- 斎藤（徳島商）
- 山下（長崎工）
- 永井（鹿本商工）

海上自衛隊第3術科校（千葉）

- K田上 171
- F三浦 168
- 平野 179
- 横山 173
- 鈴木 170
- 末崎 172
- 西田 173

なし

金沢市役所（石川）

- K竹中 180
- F四月朔日 175
- 石野 174
- 北野 178
- 水野 170
- 瀬藤 168
- 山岸 174

- 大土（東京農大）

関西大（大阪）

- K井上 175
- F内田 170
- 吉田 170
- 鞘本 173
- 塚本 176
- 平元 176
- 柏木 174

- 小牧（峰山高）
- 山野（勝山高）
- 富吉（乙訓高）
- 林（斐太高）
- 結城（洛北高）
- 山本（丸亀高）
- 長岡（日吉ケ丘）

京大（京都）

- K太田 170
- F日下部 174
- 福井 179
- 原 173
- 兼森 176
- 藤井 170
- 平井 178

- 松本（東大寺学園）
- 荒木（洛星）
- 北村（〃）
- 権藤（長崎南高）

京都産業大（京都）

- K日比 173
- F福井 183
- 戸田 178
- 大原 176
- 西沢 172
- 天本 176
- 島 164

- 浅田（山陽高）
- 松永（〃）
- 沢田（笠田高）
- 清水（小野工高）
- 竹内（棒原高）
- 谷中（那賀高）
- 寺岡（小杉高）
- 西田（明石高）
- 松野（城南高）

九州産業大（福岡）

- K小畠 175
- F井上 170
- 大塚 175
- 中馬 180
- 礒口 177
- 青柳 174
- 柳井 180
- （久保 178）

- 満重（隼人工高）
- 有村（鹿児島工）
- 松高（追手前高）
- 白地（大柿高）

九州耐火煉瓦（岡山）

- K福江 171
- F山崎 173
- 藤尾 172
- 木村 168
- 松本 161
- 吉田 159
- 片山 162
- （榎本）
- （酒井）

なし

神戸製鋼（兵庫）

- K宮永 179
- F角谷 175
- 笹野 175
- 若本 175
- 水野 172
- 田路 170
- 前田 170
- （赤嶺 172）

- 大谷（堺工高）
- 田中（〃）
- 小波津（〃）
- 松原（小野工高）

丸善石油松山（愛媛）

- K塩田 174
- F岡部 163
- 小笠原 164
- 神野 167
- 泉 174
- 篠原 180
- 木村 168

丸善石油下津（和歌山）

- K海端 175
- F岸本 167
- 辻井 172
- 三木 165
- 松本 177
- 刀弥 176
- 堤本 176

なし

三井石油化学（山口）

- K杉弘 178
- F中股 178
- 大村 175
- 森重 170
- 大森 172
- 作花 167
- 栗屋 160

宮城教員（宮城）

- K守屋 170
- F池田 163
- 石田 171
- 佐藤 177
- 岩槻 180
- 白幡 178
- 今野 170

- 守屋（日体大）
- 池田（〃）

三春台ク（神奈川）

- K井上 170
- F尾島 169
- 大山 180
- 植木 178
- 斎藤 172
- 長谷川 169
- 小石川 168

- 小石川（法大）
- 笹生（明治学院大）

三菱レイヨン大竹（広島）

- K藤本 175
- F田中 174
- 善本 178
- 岡村 168
- 山川 165
- 岩本 170
- 大江 172

- 末広（岩国工高）

明治大（東京）

- K有吉 173
- F相本 170
- 村重 170
- 山岡 179
- 指宿 175
- 山根 170
- 石井 175

- 岡部（川和高）
- 江幡（氷見高）
- 松本（岩国高）
- 加納（佐世保北）

名城大（愛知）

- K高橋 170
- F松井 173
- 石塚 178
- 森 177
- 江崎 170
- 佐藤 173
- 田中 179

- 木村（都島工高）
- 西尾（名城付高）
- 大石（豊橋工高）

奈良ク（奈良）

- K西脇 175
- F島井 172
- 樽井 170
- 保田 165
- 今西 179
- 瀬川 173

- 西脇（奈良高）
- 為永（〃）

日本発条（神奈川）

- K清水 180
- F北村 173
- 小野口 170
- 福田 170
- 伊沢 177
- 石塚 175
- 井上 182

- 高村（下松工高）
- 藤原（〃）
- 及川（横浜一商）
- 渡辺（聖光学院）
- 相沢（鎌倉学園）
- 岡部（早鞆高）
- 遠原（鎮西高）
- 永倉（隼人工高）

日本鋼管福山（広島）

- K一色 180
- F西田 178
- 渡辺 178
- 辺見 180
- 浜田 167
- 藤島 167
- 挟間 180

- 野上（浜田水産）

日本体育大（東京）

- K奥川 178
- F細江 175
- 永井 165
- 田原 169
- 福井 175
- 喜井 178
- 管野 178

- 半田（湯沢高）
- 後川（岩国工高）
- 小林（羽水高）
- 姿（氷見高）

日新製鋼呉（広島）

- K三田 180
- F松木 171
- 村川 179
- 吹上 171
- 下茂 177
- 吉田 176
- 中川 169
- （下西 170）
- （越智 179）

- 下西（呉工高）
- 越智（〃）

岡山教員（岡山）

- K藤原 175
- F森安 170
- 瀬島 176
- 船越 172
- 藤本 168
- 永井 165
- 楠戸 167

大山商会（大阪）

- K川原 182
- F中村 170
- 奥川 175
- 前島 177
- 佐藤 166
- 山口 170
- 伊藤 177
- （越智 162）
- （川村 180）

- 川村（北淀高）

大阪イーグルス（大阪）

- K本田 175
- F高橋 165
- 福井 172
- 早川 178
- 河原崎 174
- 池本 173
- 安達 170

- 早川（元・湧永薬品）

大阪経済大（大阪）

K福　井　172
F奥　川　173
津　川　180
穂　積　181
橋　本　176
太　田　170
石　井　175

山　本（添上高）
岡　本（倉敷商）

大阪体育大学（大阪）

K宍　倉　170
F中　村　179
中　出　164
坂　本　175
白　柳　178
福　永　178
山　内　178

大　屋（大　商）
岡　村（武庫工）
北　川（堺工高）
西　上（〃　）
丸　井（〃　）
野　波（伏見工）
川　村（福井工）
佐々木（添上高）
松　岡（若狭高）
崎　野（高島高）

大崎電気工業（埼玉）

K下　里　184
F飯　田　188
簱　野　175
東　180
荒　井　180
佐藤章　176
沢　田　176

小　松（湯沢高）
佐藤文（〃　）
新　田（水俣商高）

陸上自衛隊勝田（茨城）

K柳　林　170
F日　高　167
関　島　178
平　山　164
増　田　164
小　松　174
鳥　海　174

福　山（水戸短大付）
田　山（玉造工高）
田　村（少年工科）
額　賀（麻生高）
栗　原（笠間高）
関（〃　）

琉球大（沖縄）

K平　良　169
F玉城泰　171
上　原　167
高　山　168
田　島　169
上　地　173
金城隆　167

金城文（首里高）
宮　城（〃　）
池　田（八重山高）
新　垣（〃　）
平　良（宮古高）
仲　座（糸満高）
玉城健（〃　）

三景（東京）

K西　牧　177
F喜　田　178
植　田　176
高　梨　175
内　藤　174
佐々木　175
加藤正　180

佐々木（中　大）
加藤正（早　大）
佐　藤（法　大）
大　森（荏原高）
加藤政（〃　）
山（津幡高）

三洋電機岐阜（岐阜）

K石　田　168
F泉　172
小　磯　165
林　170
前　原　168
藤　田　168
川　上　169

芝浦工業大学（東京）

K吉　田　175
F黒　田　171
押　切　172
新井田　175
斎　田　177
柳　沢　170
柳　原　185

舛　屋（佐世保北高）
村　田（〃　）

修道大（広島）

K宇　土　170
F隠　居　182
藤　川　175
清　家　170
中　村　175
坪　本　170
増　根　172

迫（広　高）
松　田（安下庄）
石　井（修道高）

静岡県教員団（静岡）

K山　口　176
F小　林　165
寺　田　173
板　倉　179
杉　山　172
入　山　168
原　172

小　林（日体大）
板　倉（〃　）

住友化学菊本（愛媛）

K藤　田　182
F白　石　170
千　載　180
金　剛　181
原　169
伊　藤　167
曽我部　173

スワロー兵庫（兵庫）

K上　野　176
F北　山　178
畑　180
井　上　175
黒　田　174
木　野　178
松　岡　182

松　岡（日体大）
藤　田（〃　）
木　島（〃　）
馬　場（国士館大）
阪　本（大阪体大）

西南学院大学（福岡）

K築　地　171
F牧　169
飛　石　172
津　田　169
長　崎　168
阿　部　173
藤　野　172

野　田（天草高）

仙台大（宮城）

K小野寺　173
F佐　藤　169
伊　東　168
栗　栖　179
下　村　170
中　西　168
千代谷　175

吉　田（室蘭清水丘）
徳　能（築館高）

添上ク（奈良）

K岡田弥　175
F岡田仁　171
中　田　170
奥　田　170
谷　口　182
西村公　168
西村佳　168

中　田（大阪体大）
岡田弥（添上高）
谷　口（〃　）
中　西（〃　）

東京教育大（東京）

K上　原　172
F土　井　170
村　松　165
嶋　田　172
藪　野　170
川　原　170
中　村　168

上　原（熱田高）
川　原（枚方高）
中　村（寝屋川高）
浜　田（明石高）
竹　内（上田高）
秋　田（佐倉高）
西　川（伊勢高）
佐　藤（桐朋高）
高　島（岐阜高）

トヨタ車体（愛知）

K遠　山　173
F山田透　165
宮　松　174
山　口　176
松　本　170
横　尾　178
高　橋　168
山田隆　168

山田隆（中京高）
林（名南工高）
牧（吉良中）
佐　藤（武蔵工大）

和歌山教員（和歌山）

K堤　178
F塩　崎　178
串　野　172
鈴　木　169
市　瀬　184
吉　田　182
田　中　170

湧永薬品（大阪）

K今　井　178
F市　原　181
木　野　180
森　170
高　橋　165
戸　田　170
藤　井　176

大　山（松山商大）
松　岡（宇部工専）

早稲田大（東京）

K石　橋　176
F渡　辺　173
小松原　176
田　中　166
菊　池　186
脇　若　180
川　畑　171

泉（修道高）
鈴　木（江戸川高）
阪　本（済々黌高）
三　辻（神代高）
甘　利（小岩高）

〔締切り後到着分・順不同〕

男・埼玉教員ク（埼玉）

K細　野　170
F斎　藤　169
中　島　168
高　田　175
北　井　176
高　橋　177
仲　尾　175

仲　尾（東京教大）

男・佐世保ク（長崎）

K市　木　175
F田　添　175
長　谷　167
山　高　167
本　田　165
大　塚　164
末　永　172

佐　藤（島原商高）
士　橋（佐世保工）
小　川（鹿町工高）

女・大和銀行（大阪）

K長　屋　155
F栄　藤　159
小　島　156
松　下　162
沢　村　156
古　川　148
山　口　155

松　下（住吉学園）
小　島（愛泉学園）
片　田（〃　）

【おことわり】　本誌前号既報の日本協会役員名簿のうち技術部委員小林二郎氏はその後辞退された。

【訂正】　本誌前号（108号）15頁・世界女子選手権アジア地域予選記事のうち佐藤和夫とあるのは佐野和夫氏の誤りでした。お詫びして訂正します。

【お知らせ】　日本協会新登録（5月31日）にともなう機関誌の送付は7月号から1年間（11回）ですので御了承下さい。

◇女子（ＡＢＣ順）

全和洋（秋田）

K堀　井　163
F松橋和　163
信　太　168
伊　藤　161
塚　田　161
小玉和　157
高　橋　161

武　内（和洋高）
加　藤（〃）
鈴　木（〃）
松橋つ（〃）
小玉敬（〃）

プラザー工業（愛媛）

K井戸田　161
F藤　浪　161
鳥　居　162
原　川　161
平　160
宮　崎　164
熊　谷　158

鍋　島（小松市女）
杉　本（〃）
小　森（佐世保商）
山　本（〃）
藤　井（高　水　高）
国府田（水海道二）
佐々木（高　高　蔵）
鈴　木（新居浜西）

中京大（愛知）

K佐々木　160
F松本良　160
浜　下　160
松本富　155
和　多　156
藤　井　157
石　川　154

小　川（三　方　高）
川　合（吉原商高）
伊　藤（県神戸高）
加　藤（稲沢東高）

岐阜大（岐阜）

K二　村　160
F鈴　木　163
森　下　158
永　井　160
沢　田　156
田　中　155
大　森

大　森（益　田　高）
白　木（多治見北）
豊　吉（時習館商）
渡　辺（多治見北）

日立製作所栃木（栃木）
〜新設チーム〜

K粂　谷（国学院栃木高）　163
F木　村（日　体　大）　159
鈴　井（〃）　161
小　林（　）　158
小根沢（下　仁　田　高）　155
鈴木昌（国学院栃木高）　165
山　井（〃）　159

桜　庭（秋田和洋）
藤　田（室蘭商高）
鈴木幸（須賀川高）
土　屋（小諸商高）
富田川（明　善　高）
大　庭（真　備　高）
本　城（桜　水　商）
田　村（平　館　高）
高　橋（花巻農高）
伴（矢板中央高）

甲子園短大（兵庫）

K田　中　167
F平　田　162
木　下　158
竹　内　159
太　田　153
福　田　154
飛　嶋　158

仁　張（甲子園学院）
森　岡（〃）
岡　本（〃）
高　木（住吉学園）
菊　地（美　作　高）
大音師（小松女高）

美和ク（東京）

K山　田　158
F多　田　154
山　崎　154
新　島　152
万　野　152
木　幡　154
久保田　162

新　島
（元・大崎電気）
西　山（小高農高）

武庫川女子大（兵庫）

K榎　本　156
F寺　尾　155
辻　150
中　川　164
橋　本　160
万　代　156
倉　156

井　上（住吉学園）
吉　田（〃）
山　本（城　山　高）
小　西（鶴見商高）
馬　木（新居浜東）

日本ビクター（茨城）

K渡　辺　162
F池　田　167
阿　部　166
谷　沢　164
額　賀　163
蓮　見　163
高　野　153

加　藤（涌　谷　高）
丸　山（米沢女高）
滝　本（岩　井　中）

扇屋（千葉）

K鶴　岡　157
F伊　藤　159
戸　村　155
塩　谷　157
桜　井　161
山　村　159
村　上　155

な　し

大阪スターズ（大阪）

K小　林　156
F田　井　157
田　村　159
古　川　163
細　川　158
林（ひ）　161
長　田　163

宮　脇（清友高）
林（恵）（〃）
金　岩（〃）
稲　田（北淀高）
和　田（鶴見商高）
内　野（〃）
阿　南（美濃高）

大阪体大（大阪）

K堀川登　168
F堀川景　158
山　本　164
高　木　158
奥　野　163
金　森　165
高　市　163

青　木（明　石　商）
大　谷（気　賀　高）
木　原（清水ケ丘）
滝　本（明徳商高）
平　山（高　島　高）
船　橋（京都女高）
水　野（不　破　高）

大崎電気工業（埼玉）

K和　田　167
F佐　藤　167
岩　井　156
席　定　155
大　場　164
永　吉　168
深　堀　164

内　野（熊本商工）
大　場（竹田女高）
杉　尾（函館女高）
永　吉（佐世保商）
深　堀（〃）

大谷ク（大阪）

K吉　川　157
F辻　江　163
吉　元　158
浅　田　157
岡　西　157
二　村　149
中　村　149

松　本（大谷高）

大洋デパート（熊本）

K小　原　162
F垂　水　163
米　162
島　田　163
蔵　田　163
篠　田　162
加子崎　161

矢　田（熊本市高）
作　用（熊本女商）
富　田（鹿本商工）

田村紡績（三重）

K久　保　161
F　沖　160
三　毛　163
辻　154
金田伴　158
笠　158
横　山

松　下（三本松高）
金田孝（四日市高）
鈴　木（津　女　高）
落　合（〃）
岡（〃）
若　田（大　淀　中）

東北ムネカタ（福島）

K熱　海　165
F小　泉　160
後　藤　159
遠　藤　154
伊　賀　155
有　賀　164
細　谷　165

熱　海（築館一迫）
鈴　木（塩釜女高）
細　谷
（須賀川長沼）

東京重機工業（東京）

K三　紙　164
F牧　野　162
古佐原　152
市　川　158
鈴　木　160
生　井　156
菊　地　162

町　田（山陽女高）
三　紙（〃）
波多腰（高　水　高）
杉　山（沼津女高）
渡　辺（御殿場高）
柘　植（京浜女高）

東京女子体大（東京）

K前　島　161
F西　田　154
赤　岸　153
高　橋　159
橋　158
寺　田　163
野　口　160

野　口（水海道二）
田　中（広島一女商）
松　岡（小林商高）
山　口（府　中　高）
長　崎（青森西高）
鍋　田（清水西高）
三　沢（桜水商高）
青　木（府　中　高）
佐　藤
（群馬女短大付）
高須賀（東　温　高）

東京教育大（東京）

K松　井　164
F畑　中　158
橋　本　160
名　賀　162
白　鳥　163
土　屋　157
横　田

坂　梨（多　摩　高）
土　屋（九　段　高）
中　島（都立西高）
西　山（丸　亀　高）
吉　本（済　々　高）
横　田（高崎女高）
三　井（沼津西高）
神　宮（都立富士）

豊田工機（愛知）

K今　村　164
F藤　田　160
榊　原　160
角　谷　155
都　築　158
新　実　155
近　藤　156

野　間（安　城　高）
近　藤（安城学園）

★……アンケート未着のチームもありますが、この特集は本号で打ち切らせていただきます（編集部）

初夏恒例の2大会（全国実業団 NHK杯）展望

世界選手権候補（男女）選考の一資料とする二大会が相次いで開幕する。17日からの全国実業団トーナメント（福井）と22日からのNHK杯（大阪）。組み合せを見ながら優勝の行方を探ってみたい。

（杉山　茂）

第20回NHK杯全日本選抜

6月22日から24日までの3日間大阪市立中央体育館に日本協会の推せん（選考経過は別掲）による男女4チームが集りリーグ戦で行われる。

男子は実業団の単独2チームに学生界、教職員界のピックアップチームがからむ。

総合力では湧永薬品(大阪)、大同製鋼（愛知）が練習量も多く一歩先んじている感じだが、全日本学生選抜は韓国遠征（6月6日〜15日）のメンバーがそっくり乗りこむし、全日本教職員選抜も主力にオリンピック代表とナショナルプレイヤーを並べ、近来になく手強い布陣である。優勝の行方は簡単に予測できない。

あえて占えば大同中心の展開だろうか。中井、藤中、松原、加藤に花輪（中大）を加え、野田もいぜん劣えぬテクニックを誇る。技と力を備えたこの攻撃陣は「国際的なもの」（4月来日のギョッピンゲン、ミョラー主将）だ。守りもFPの激しさに加えてGK柳川兄が確実味を増し、攻守ともにスキがない。

第1日の湧永×教職員の勝者が大同につづこう。湧永は木野、市原、高橋、森、戸田、GK今井とキャリア豊かな選手を揃えているが、早川が教員に身を転じ抜けてしまったのは痛い。大山（松山商大）、藤井の動きがカギである。教職員は本誌締切日（5月25日）までにメンバーは未発表だが片瀬・全日本教職員連盟理事長は「昨年の全日本教職員1位大阪イーグルス勢へベストセブンを加えることになろう」といっており、厚味のある布陣を期待してよい。特にGKは本田（大阪イーグルス）、大村（茨城教員）と揃えば文句なしに参加チーム随一、攻撃力も早川（大阪イーグルス、元湧永薬品）、氷海（千葉教員）の両オリンピック代表を軸に充分「優勝」の力をもつ。

全日本学生は10校14人による編成だが5月末からの合宿と遠征で単独同ようのまとまりとみたい。

川畑(早大)、村田（法大）をゲームメーカーに菊地(早大)、中村(大体大)、夏目（中京大)、柳(法大)、山村(中大)、細江(日体大)、津川(大阪経大)、牧野(同志社大)など次代の全日本候補が主力。GKは学生ナンバーワンという定評をもつ福井（中京)、大器・柴田（法大）もいよいよ真価を発揮しはじめてきておりそのプレーが注目される。

緒戦の大同戦を勝ちとると、パワー、スピードは申し分ないだけに一気に他チームもなぎたおしそうだ。反面、若さをつかれたり、遠征帰りのコンディションを考えると意外のもろさを露わす不安がなくもない。

第20回NHK杯日程

▽第1日（6月22日・金）

15.00 女①東京重機—全日本学生
16.10 女②大洋デパート—日本ビクター
17.20 男①大同製鋼—全日本学生
18.40 男②湧永薬品—全日本教職員

▽第2日（6月23日・土）

15.00 女①の勝者—女②の敗者
16.10 女②の勝者—女①の敗者
17.20 男①の勝者—男②の敗者
18.40 男②の勝者—男①の敗者

▽第3日（6月24日・日）

11.40 女
12.50 男
14.10 女
15.15 男
（以上）残りカード

NHK・TV（総合）中継は，24日15時〜16時30分の予定

大洋—重機の争い？

女子の優勝は2連勝を狙う大洋デパート（熊本）とチャンピオン東京重機（東京）の争いだろう。

大洋は垂水、米、島田、蔵田、GK小原、重機は牧野、古佐原、市川と全日本選手を要（かなめ）に配し、このほか大洋は篠田、加子崎、重機は鈴木、生井、菊地ら進境いちじるしい若手で固めている。実力伯仲、まったく差はないが、重機は昨秋に長岡、今春に上杉と相次いでGKが退部したため、新人・三紙（山陽女高）を起用する。三紙は折紙つきの好選手だが、社会人として初の桧舞台だけに気がかりなところもある。

日本ビクターも侮れない。ヒザの故障に悩みながら、むしろ以前より鋭さの増した池田をリーダーに阿部、額賀、蓮見、谷沢、高野、加藤（涌谷高）らでまとまっている。

全日本学生は中心の日体勢が関東学生（5月）では元気なく、どこまで立ち直っているかが問題。坂本、木元(いずれも日体)、畑中（東教大)、西田(東女体大)、松本(中京大)、安井(中京女大)、堀川景（大体大）らの攻撃力と、松井（東教大)、堀川登（大体大）のGK陣は決して実業団単独に劣るとは思わない。波乱の目となるよう一ふんばり願いたいものだ。

出場チーム選考経過

第20回NHK杯出場チーム選考委員会（荒川清美委員長、安藤純光、福地賢介、泉正明、片瀬喜代次、杉山茂、滝口三郎の各氏）は5月12日日本協会室で開かれた。

男女とも出場チームの加盟団体別分配数は2月の全国評議員会、同理事会で決められており、それぞれ1チームを割り当てられていた学連男女と教職員連は、選手の質量から選抜軍を編成させたいという連盟側の意向を尊重した。

問題は実業団の男2、女3で、男子は実業団選抜と自衛隊選抜、東・西日本選抜ではとの意見もあったが、学連などとは逆に単独でも充分のチーム力があるとの意見が支配的となり、その線で昨年度の実績を重点、新戦力を参考として選考を進めた。女子は東京重機、大洋デパートが比較的簡単に決まったが残る1チームで難航、日本ビクター、田村紡、ブラザー工業からブラザーが落ち、激しい議論のすえ投票、日本ビクター4票、田村紡2票で落ちついた。男子は湧永、大同、大崎、三景、本田技研、大山商会、三菱レ大竹らの名があり、順次しぼったあとまず湧永を決定。大同—大崎は投票で大同5票（無効1）となり出揃った。

全国実業団トーナメント

6月17日から20日まで福井市の市営体育館(17、18日は北陸電力福井体育館併用)に32チームが参加、例年どおり、上位2チームが、7月の全日本実業団選手権(熊本)への出場権を得る。

組み合せをみると住友化学菊本(愛媛)、セントラル自動車、日本発条(ともに神奈川)、丸善石油下津(和歌山)、トヨタ車体(愛知)、日新製鋼呉(広島)、大山商会(大阪・前年度優勝)ら有力とみられる各チームがうまく散り激しい試合を期待してよさそうだ。

順当に進めば準々決勝のカードは住友化学—セントラル、新日鉄名古屋—丸善石油下津、日本発条—日本合成ゴム(三重)、トヨタ車体—大山商会となるのではなかろうか。このうちから、さらに優勝争いへ焦点をしぼると住化—セントラルの勝者、日本発条—トヨタ、大山の勝者あたりか。

住化菊本は白石、金剛、伊藤、千載、原、曽我部、GK藤田と揃うがこのところあまり新戦力の補強がなく主戦メンバーの手の内を知られている。しかし、それだけにキャリアは充分でソツのない試合運びを示す。

セントラルは調子の波がはげしすぎるきらいはあるが羽毛田、加藤、吉沢、布施、吉田、木村らの攻撃力はなかなか。

2連勝を狙う大山とトヨタ車体はもつれそう。

大山の土田、奥川、前島の攻撃トリオは参加チーム随一の力といわれるが、一方、トヨタも山田透、宮松が健在のうえ松本、山田信、新人・林(名南工高)、山田隆(中京高)と厚味のある布陣だ。

日本発条は北村、小野口両ベテランがいぜん元気で石塚、福田、井上らを引っぱっており、多彩な攻撃をみせる。

もっともこれらのチームにも「絶対」というタイコ判をおせるわけではない。

日本発条の緒戦・海上自衛隊下総(千葉・自衛隊選手権優勝)は平野、三浦、西田らを主力に今秋の国体を控えて腕をあげているし、大山商会には正岡、下茂、吹上らを揃えた日新製鋼呉(広島)が立ちはだかる。

丸善石油下津も持ち駒に不安を残すが試合運びの巧さは定評がある。自衛隊勝田(茨城)との一戦は1回戦屈指の好カード。

このほか神戸製鋼呉(兵庫)、大阪ガス(大阪)の近畿勢、日本鋼管福山(広島)、武田薬品光(山口)の中国勢、新日鉄名古屋(愛知)、二和家具(岐阜)の東海勢など実業団球界が充実している地域からの出場チームは攻守のバランスがとれ上位進出を狙う力を充分にもつ。

また、ホームコートの北陸電力(福井)、金沢市役所、小松製作所(いずれも石川)ら北陸勢もまとまっている。

いずれにせよ、大同製鋼(愛知)をはじめとする超Aクラス6チームを抜いてのトーナメントだけに、大きな実力差はなく、どのチームも勢いにのれば一気に最上位へかけあがる可能性があり波乱ぶくみの興味深い大会といってよい。

住友化学菊本(愛　媛)
三　菱　油　化(三　重)
金沢市役所(石　川)
大　阪　ガ　ス(大　阪)
セントラル自動車(神奈川)
日本耐酸壜(岐　阜)
境港市役所(鳥　取)
富士レジン(兵　庫)

武田薬品光(山　口)
安　田　生　命(東　京)
日　進　商　会(神奈川)
新日鉄名古屋(愛　知)
川　崎　重　工(兵　庫)
日本鋼管福山(広　島)
自衛隊勝田(茨　城)
丸善石油下津(和歌山)

日　本　発　条(神奈川)
海上自衛隊下総(千　葉)
小松製作所(石　川)
神戸製鋼所(兵　庫)
静岡日野自動車(静　岡)
二　和　家　具(岐　阜)
日　本　碍　子(愛　知)
日本合成ゴム(三　重)

トヨタ車体(愛　知)
京都信用金庫(京　都)
三　洋　電　機(岐　阜)
北　陸　電　力(福　井)
丸善石油松山(愛　媛)
日新製鋼呉(広　島)
日本鋼管京浜(神奈川)
大　山　商　会(大　阪)

大同ら上位リーグ

全日本実連は7月11日から4日間熊本市で開く第14回全日本実業団選手権(日本実業団リーグ)の出場チームを次のように発表した。

大同製鋼(愛知、前年度優勝)大崎電気(埼玉)湧永薬品(大阪)本田技研鈴鹿(三重)三景(東京)三菱レイヨン大竹(広島)、このほかに全国実業団トーナメントの上位2チーム。

女子は〝底辺の部〟併設

全日本実連は、今年の選手権リーグを男子は7月11日から5日間熊本市で、女子は同3日から6日間岐阜市で開くが、女子の部は特に〝底辺〟拡大を目的に新興チーム、クラブ的実業団チームのためリーグとは別の試合(リーグの予定)を開くことに決めた。

◇各地学生春季リーグ戦記録

東北学院が2連勝（春季）

東北・北海道

◇第7回東北・北海道学生選手権◇5月4～6日◇北海道大◇参加12校

31年秋以来つづいていた「東北・北海道」学連は北海道学連創立にともなってこの大会を最後に別々の道を歩むことになり、送別記念大会であった。

3校づつ4組の予選リーグでは前年優勝の東北学院、昨秋優勝の東北大、北海道学生ナンバーワンの北大、上り坂の福島大が順当に2勝をあげて決勝リーグへ進出した。

4校の実力は伯仲で、第1日（5日）優位に立った東北学院、東北大のうち、第2日になって東北大が福島大と引き分けたのに対し、東北学院は北大に制勝、一歩先んじた。

東北大は最終戦に優勝に望みをかけたが、東北学院は得点機を確実に活かして突き放し2年連続3度目（秋との通算11度目）の優勝となった。

下位グループでは仙台大ら東北勢が北海道勢をおさえこんだ。

▽予選リーグA組
小樽商大 18－15 旭川教大
東北学院 30－12 旭川教大
東北学院 36－12 小樽商大

▽同B組
宮城教大 15－12 釧路教大
福島大 24－11 釧路教大
福島大 13－8 宮城教大

▽同C組
仙台大 17－8 東北工大
東北大 22－8 東北工大
東北大 18－9 仙台大

▽同D組
岩手大 21－16 北見工大
北海道大 20－9 岩手大
北海道大 20－10 北見工大

▽5位決定トーナメント予備戦
仙台大 － 岩手大
宮城教大 － 小樽商大

▽9位決定トーナメント予備戦
東北工大 － 北見工大
釧路教大 － 旭川教大

▽11・12位決定戦
旭川教大 14－1 北見工大

▽9・10位決定戦
東北工大 15－12 釧路教大

▽7・8位決定戦
岩手大 28－3 小樽商大

▽5・6位決定戦
仙台大 14－8 宮城教大

▽決勝リーグ
東北学院 13－11 福島大
東北大 18－16 北海道大
福島大 8－8 東北大（引き分け）
東北学院 20－11 北海道大
福島大 13－10 北海道大
東北学院 14－10 東北大

【順位】①東北学院3戦全勝②福島大1勝1分1敗（得失点差1）③東北大1勝1分1敗（マイナス2）④北大3敗⑤仙台大⑥宮城教大⑦岩手大⑧小樽商大⑨東北工大⑩釧路教大⑪旭川教大⑫北見工大

法政、宿願の初優勝飾る（34年加盟）

健斗した学芸大　中央の4連覇成らず

関東

◇4月28日～5月20日◇駒沢屋内球技場◇参加1～4部各8校、5部10校

中、日体、法、早4強が順当に序盤戦を乗り切るかとみられた1部は、第2日東京学芸大がエース金子を中心としたすばらしい攻撃で日体を圧倒、前半25分9－2と一方的に開く健斗をみせ、相手の反撃も余裕を残してかわし、大殊勲をあげた。

この1戦で、にわかに混戦の様相となり、上位校はとりこぼしこそなかったが激戦をくりひろげ終盤への球趣を盛りあげた。

第5日以降の星のつぶしあいはまず法政が日体を後半鋭く攻めて快勝、一つのヤマとみられた中央×早稲田は互角のすべり出しから中央が巧くチャンスを活かして主導権を握った。早稲田もじっくりと追いあげ後半23分には10－12としたが追撃もそこまで、中央が逃げ切った。

この結果、優勝は第6日の法政×中央戦にかけられることになり騒然たる雰囲気のうちに対決した

波にのる法政は村田の絶妙なハンドリングを軸としたセットプレーで長谷川、橋本、川島、上滝らが得点、要所で得た7MTを川島が確実に決め優位に立った。

中央も決して悪いデキとは思えなかったが、好機を法政GK柴田の美技につぶされたのが響いた。

後半も柳を中心に法政が勢いづいた攻守を示したのに対し中央は松本、村田、上村が散発的にポイントしたにとどまり、予想外の大差で法政が快勝、6勝をマークして優勝を確定した（注・同率の場合も優勝決定戦は行われない）

最終日の焦点は法政の単独優勝がなるか、中央が同率優勝にこぎつけるかにあった。

法政は早稲田の斗志の前に先手をとられつづけ今シーズンもっとも苦しい試合になった。後半なかば川島の活躍で16分13―11とし早稲田も20分以後川畑の連続3ゴールで逆転、26分山田（克）が追い討ちをかけて16―14。法政は26分柳、29分村田でタイとした。しかし29分7秒致命的とも思われる7MTを脇若に決められ17―16、スタンドの中大勢をわかせた。だが法政はさすがに優勝校、残り8秒で得たフリースローを村田―上滝と渡して、上滝が右サイドから躍りこむように同点シュートをたたきこんだ。

こうして法政は昭和14年秋加盟以来、悲願の初優勝を劇的なもりあがりのうちにしめくくった。

日体―法政戦，法政は攻守ともみごとなチームプレーを示し快勝，優勝へ王手をかけた　（撮影・山口芳則）

早稲田の3位は41年秋以来、日体がベストスリーからもれたのも41年秋(6位)以来のことである。

Bクラスでは東京学芸大がスマートな攻撃陣の活躍で3勝、昨秋全日本学生選手権の帰途、ハイウエイバス事故で亡くなった青木前主将の遺影に報いた。

明治、芝浦工大、東京教大はパワー、スピードが不足し、特に東京教大は7試合62ゴールという低調で最下位に落ちた。

2部は慶応が好調にとび出したものの終盤くずれて日大が5度目の優勝、3部は東海が今シーズン各部を通じ唯一の全勝で初優勝、4部は昇格したての駒沢が初、5部は新加盟の東邦、北里を加えて10校の争いから東京経済大が激戦を切り抜け初優勝をとげた。

得点王は1部が川島一雄(法政、桐生工出)、2部が徳光弘介（一橋、熊本高出）、3部が加藤哲夫（千葉工大、函館中部高出）、4部が篠塚珠治（茨城大、佐原高出）、5部が近久紀人（東京理科大、平沼高出）の各選手に決まった。徳光は3部時代の3回に加えて4回目の表彰という快記録、篠塚は昨春につづき2度目。

注目の大型新人・蒲生（中大、中大付高出、192cm）は20ゴール（7試合）をあげ大器ぶりを発揮した。

なお、今シーズンからリーグ優秀選手が選考されることになり別掲のように決まった。

▽1部

早稲田 27（12―1, 15―6）7 明治

中央 37（21―4, 16―5）9 東京学芸

日体 15（10―3, 5―3）6 芝浦工大

法政 21（13―4, 8―6）10 東京教大

早稲田 22（12―4, 10―3）7 東京教大

中央 20（11―8, 9―3）11 芝浦工大

東京学芸 16（6―9, 10―3）12 日体

得	【学芸】		【日体】	得
0	斎藤	GK	奥川	0
		GK	斎藤将	0
3	植口	FP	細江	4
9	金子	FP	永井	1
0	大高	FP	田原	3
1	村田	FP	福井	0
0	服部	FP	喜井	4
0	梅原	FP	細沢	0
2	内記	FP	平野	0
1	江成	FP	平賀	0
0	古俣	FP	菅野	0
0	中沢	FP	斎藤幸	0

16（0）7MT（1）12

日体 17（9―5, 8―5）10 明治

法政 22（11―3, 11―3）6 東京学芸

早稲田 18（11―3, 7―5）8 芝浦工大

中央 20（10―3, 10―6）9 東京教大

早稲田 20（12―6, 8―6）12 東京学芸

日体 33（23―4, 10―3）7 東京教大

法政 22（8―8, 14―2）10 芝浦工大

芝浦工大 17（9―2, 8―6）8 東京教大

明治 18（6―5, 12―3）8 東京学芸

法政 12（6―3, 6―6）9 日体

得	【法政】		【日体】	得
0	森田	GK	奥川	0
0	柴田	GK	斎藤将	0
3	柳	FP	細江	0
0	長谷川	FP	永井	1
2	橋本	FP	田原	3
0	井手	FP	福井	0
5	川島	FP	平野	0
0	矢島	FP	喜井	5
0	荒井	FP	橋本	0
1	上滝	FP	中山	0
0	青山	FP	菅野	0
1	村田	FP	斎藤幸	0

12（3）7MT（0）9

中央 13（4―5, 9―5）10 早稲田

得	【中央】		【早大】	得
0	吉近	GK	石橋	0
0	山田	GK	山田章	0
1	村田	FP	渡辺	1
3	今関	FP	小松原	0
2	山村	FP	田中	2
4	松本	FP	菊池	3
0	上村	FP	脇若	2
1	佐野	FP	川畑	2
0	松下	FP	小田克	0
0	戸田	FP	山高	0
0	大熊	FP	岡本	0
2	蒲生	FP	明石	0

13（0）7MT（1）10

関東学生春季（1部）

	法	中	早	日	学	明	芝	教	P	勝	分	負
①法政	…	○	△	○	○	○	○	○	12	6	1	0
②中央	●	…	○	○	○	○	○	○	13	6	0	1
③早稲田	△	●	…	●	○	○	○	○	9	4	1	2
④日体	●	●	○	…	●	○	○	○	8	4	0	3
⑤東学大	●	●	●	○	…	●	○	○	6	3	0	4
⑥明治	●	●	●	●	○	…	△	○	5	2	1	4
⑦芝工大	●	●	●	●	●	△	…	○	3	1	1	5
⑧東教大	●	●	●	●	●	●	●	…	0	0	0	7

【2部順位】①日大6勝1敗②慶応5勝2敗③関東学院・国士館4勝1分2敗⑤明星4勝3敗⑥防衛大3勝4敗⑦立教1勝6敗⑧一橋7敗

法政 17（9－9, 8－8）17 早稲田 引き分け

明治 23（10－9, 13－5）14 東京教大

東京学芸 19（9－6, 10－4）10 芝浦工大

日体 17（9－7, 8－8）15 早稲田

法政 21（11－7, 10－6）13 中央

明治 13（6－5, 7－8）13 芝浦工大

東京学芸 21（8－6, 13－1）7 東京教大

得	【明治】		【教大】	得
0	有吉	GK	上原	0
6	相本	FP	土井	3
8	村重	FP	村松	2
2	指宿	FP	嶋田	2
3	山岡	FP	藪野	4
2	山根	FP	中村	2
0	石井	FP	川原	0
1	岡部	FP	竹内	1
0	江幡	FP	秋田	0
1	松本	FP	浜田	0
0	加納	FP	西川	0
23	（4）	7MT	（2）	14

得	【学芸】		【芝浦】	得
0	斎藤	GK	吉田	0
7	樋口	FP	黒田	0
5	金子	FP	古川	3
1	大高	FP	押切	1
0	村田	FP	斎田	3
6	内記	FP	新井田	1
0	服部	FP	安中	1
0	梅原	FP	柳沢	1
0	江成	FP	柳原	0
0	中沢	FP	村田	0
0	金村	FP	舛屋	0
19	（2）	7MT	（1）	10

得	【法政】		【中央】	得
0	柴田	GK	吉近	0
0	森田	GK	山田	0
4	柳	FP	村田	2
1	長谷川	FP	今関	1
5	川島	FP	山村	1
0	井手	FP	松本	5
0	大西	FP	上村	2
7	村田	FP	大熊	1
3	上滝	FP	蒲生	1
0	荒井	FP	松下	0
0	青山	FP	戸田	0
1	橋本	FP	佐野	0
21	（4）	7MT	（1）	12

得	【法政】		【早大】	得
0	森田	GK	石橋	0
0	柴田	GK	山田章	0
0	橋本	FP	渡辺	2
1	長谷川	FP	小松原	1
7	川島	FP	田中	1
1	井手	FP	菊池	3
1	上滝	FP	脇若	2
1	柳	FP	川畑	3
6	村田	FP	山田克	5
0	荒井	FP	山高	0
0	矢島	FP	岡本	0
0	青山	FP	明石	0
17	（3）	7MT	（1）	17

中央 19（12－6, 7－3）9 日体

優秀選手

〔男子〕 K 柴田（法） 吉近（中） F 川島（法） 村田（法） 山村（中） 上村（中） 喜井（体） 脇若（早） 菊池（早）

〔女子〕 K 前島（東） 松井（教） F 橋（東） 西田（東） 畑中（教） 岩本（体） 松本（体）

（FKはFG PK）

▽2部 日大、1敗守り首位

慶応 19（11－8, 8－5）13 関東学院

明星 10（5－2, 5－7）9 国士館

立教 13（7－4, 6－7）11 一橋

日大 不戦勝 防衛大

慶応 10（3－5, 7－3）8 明星

防衛大 14（6－7, 8－5）12 立教

国士館 15（6－10, 9－5）15 関東学院 引き分け

日大 24（10－6, 14－7）13 一橋

明星 8（5－0, 3－4）4 立教

慶応 13（8－3, 5－5）8 防衛大

日大 23（13－8, 10－9）17 関東学院

国士館 20（9－7, 11－8）15 一橋

慶応 19（10－4, 9－7）11 一橋

明星 15（6－7, 9－7）14 日大

国士館 19（12－6, 7－5）11 防衛大

関東学院 12（7－6, 5－4）10 立教

関東学院 24（11－6, 13－5）11 防衛大

国士館 14（10－6, 4－7）13 立教

明星 22（10－6, 12－1）7 一橋

日大 9（4－4, 5－4）8 慶応

得	【日大】		【慶応】	得
0	上野	GK	米内	0
0	高林	GK		
1	古沢	FP	岡田	2
4	上坂	FP	立田	2
2	大偶	FP	川崎	0
1	金子	FP	木村	0
1	小宮	FP	福地	2
0	潮田	FP	西村	2
0	安居	FP	細江	0
0	西子	FP	西	0
0	大塚	FP	磯部	0
		FP	浅野	0
9	（0）	7MT	（2）	8

関東学院 19（7－10, 12－6）16 一橋

防衛大 11（5－3, 6－3）6 明星

慶応 9（5－4, 4－4）8 立教

日大 20（12－7, 8－9）16 国士館

防衛大 11（5－6, 6－4）10 一橋

関東学院 13（5－3, 8－3）6 明星

国士館 15（8－8, 7－6）14 慶応

日大 23（10－5, 12－3）8 立教

東海、堂々の7戦全勝

▽3部

順天堂 20－13 武蔵工大

東海 12－11 東京工大

千葉商大 21－12 都立大

千葉工大 16－14 成蹊

東市工大 21－11 順天堂

東海 22－5 武蔵工大

千葉工大 19－9 千葉商大

成蹊 14－13 都立大

武蔵工大 11－6 都立大

東海 16－8 成蹊

千葉商大 14－12 順天堂

千葉工大 11－10 東京工大

東海 12－10 千葉工大

都立大 22－15 順天堂

成蹊 14－9 武蔵工大

千葉商大 15－13 東京工大

東海 9－8 都立大

千葉工大 16－9 順天堂

千葉商大 12－8 武蔵工大

成蹊 20－13 東京工大

成蹊 14－13 順天堂

千葉工大 19－7 武蔵工大

都立大 17－13 東京工大

東海 27－12 千葉商大

東京工大 12—5 武蔵工大
東　海 25—18 順天堂
千葉商大 16—13 成　蹊
千葉工大 14—13 都立大

【3部順位】①東海7戦全勝②千葉工大6勝1敗③千葉商大5勝2敗④成蹊4勝3敗⑤東京工大・都立大2勝5敗⑦順天堂1勝6敗（得失点差マイナス27）⑧武蔵工大1勝6敗（マイナス43）

駒沢、4部でも勝ち進む

▽4部

東　大 19—13 独　協
専　修 23—16 横浜商大
青山学院 14—11 千葉大
駒　沢 22—8 茨城大
駒　沢 17—8 独　協
東　大 13—12 青山学院
横浜商大 11—10 千葉大
茨城大 13—9 専　修
青山学院 10—9 専　修
茨城大 23—7 独　協
駒　沢 11（分）11 横浜商大
東　大 19—13 千葉大
横浜商大 14—13 東　大
茨城大 25—8 千葉大
駒　沢 18—14 青山学院
専　修 24—10 独　協
青山学院 13—12 横浜商大
駒　沢 9—8 専　修
東　大 16—15 茨城大
千葉大 10—6 独　協
青山学院 18—11 独　協
専　修 22—9 千葉大
駒　沢 19—15 東　大
茨城大 23—12 横浜商大
駒　沢 19—7 千葉大
専　修 21—9 東　大
青山学院 22—15 茨城大
横浜商大 28—9 独　協

【4部順位】①駒沢6勝1分②青山学院5勝2敗③専修・茨城大・東大4勝3敗⑥横浜商大3勝3敗1分⑦千葉大1勝6敗⑧独協7敗

東京経済大、8勝あげる

▽5部

明治学院 20—1 東　邦
神　大 22—17 北　里
東京経大 不戦勝 山梨大
上　智 21—13 東京写真大
明治学院 17—11 北　里
東京農工大 17—13 東京理大
神　大 不戦勝 山梨大
東京経大 20—10 北　里
上　智 20—18 東京農工大
明治学院 15—4 東京写真大
神　大 36—4 東　邦
東京経大 19—9 東京農工大
東京理大 不戦勝 山梨大
東京理大 31—7 東　邦
上　智 26—17 北　里
明治学院 不戦勝 山梨大
東京経大 不戦勝 東　邦
東京写真大 15—8 北　里
神　大 不戦勝 東京農工大
東京理大 20—15 上　智
東京農工大 12—10 明治学院
東京写真大 15—5 東　邦
上　智 不戦勝 山梨大
北　里 20—19 東京農工大
東京写真大 25—14 神　大
上　智 32—7 東　邦
東京経大 20—12 東京理科大
東京経大 22—14 東京写真大
北　里 不戦勝 山梨大
明治学院 21—13 東京理科大
上　智 19—18 神　大
東京農工大 19—5 東京写真大
東　邦 不戦勝 山梨大
東京経大 11—10 明治学院
神　大 13—12 東京経大
東京理大 不戦勝 北　里
明治学院 18—16 上　智
東京写真大 不戦勝 山梨大
東京理大 不戦勝 神　大
東京経大 20—15 上　智
東京理大 16—11 東京写真大
東京農工大 不戦勝 山梨大
東　邦 不戦勝 北　里
明治学院 21—19 神　代
東京農工大×東邦は両者棄権

【5部順位】①東京経済大8勝1敗②明治学院7勝3敗③上智・東京理科大6勝3敗⑤神奈川大5勝4敗⑥東京写真大・東京農工大4勝5敗⑧東邦（新加盟）・北里（新加盟）2勝7敗⑩山梨9敗

入れ替え戦・速報　関東学生春季リーグ入れ替え戦は5月29日駒沢で行われ、注目の1・2部（2カード）東京教大×日大、芝浦工大×慶大は日大と慶大の2部勢がそれぞれ勝った。

法政・関東学生全成績（本誌調べ）

	春　季	秋　季
昭14	……………	④3敗
15	⑤4敗	⑤4敗
16	④1勝4敗	④1勝4敗
17	③3勝2敗	④不明
18	③不明	18秋～20秋中断
21	⑤1勝4敗	④2勝4敗(3校)
22	②5勝2敗(2校)	⑤4敗
23	2部	③3勝3敗(2校)
24	⑤2勝4敗1分(2校)	⑤3勝4敗
25	⑤3勝4敗	⑤3勝4敗
26	③2勝3敗(3校)	⑥5敗
27	2部1位	2部
28	2部1位	③3勝2敗
29春～30春	6大学リーグへ	⑤5敗
31	⑤5敗	…………
33	31秋～33春　都学連へ	2部
34	2部1位	2部
35	2部1位	⑤1勝4敗
36	⑥2勝5敗	⑧1勝6敗
37	③5勝2敗	⑧1勝6敗
38	⑤3勝4敗	⑤2勝5敗(3校)
39	②5勝2敗(3校)	②5勝2敗(3校)
40	⑧1勝6敗	2部
41	2部	2部1位
42	⑦2勝5敗	⑤2勝5敗(2校)
43	⑤3勝4敗(2校)	⑤2勝5敗(2校)
44	⑤3勝4敗	④3勝3敗1分
45	④4勝3敗	④3勝3敗1分(2校)
46	③4勝3敗(3校)	③4勝2敗1分
47	③5勝1敗1分	③5勝2敗
48	①6勝1分	

合 繊 糸 ・ 合 繊 混 紡 糸

田村紡績株式会社

社 長 田　村　正　衛

四 日 市 市 東 茂 福 町 10 ― 17
T E L 0593―65―2156（代表）
郵便番号　5 1 2

日体、12年目で黒星
殊勲の東女体大に初栄冠

関東（女子）

◇4月28日〜5月20日◇駒沢体育館ほか◇参加5校

日体大の連勝がついにストップした。第6日（5月15日）東女体大と顔を合わせた日体は前半こそ8—8ともちこたえたものの、後半に入ると西田、赤岸、橘らで鋭く切りこんでくる東女体大の攻撃にディフエンスを崩され、攻めては4ゴール（うち7MT2）という貧攻から自滅、36年秋リーグ復活以来の連続優勝記録（昨秋まで23連覇）と36年秋季リーグ第1日日女体大に21—4で勝って以来の連勝記録は89で終止符が打たれた。学生チームに敗れたのは44年11月の全日本学生決勝・東京女体大（9—4）戦以来。東女体大は前身の音体時代（昭21秋〜23春）をふくめて優勝は初めて。

得点王には畑中（東教大）が17ゴールをあげて決まった。

		前半	後半		
東京教大	10	6—2	4—3	6	東京学芸大
日体	21	8—0	13—3	3	日女体大
東女体大	15	7—2	8—1	3	日女体大
東女体大	8	1—2	7—0	3	東京学芸大
東京教大	18	10—1	8—2	3	日女体大
日体	16	8—2	8—2	4	東京学芸大
東女体大	9	6—0	3—5	5	東京教大
東京学芸大	14	4—3	10—3	6	日女体大
東女体大	15	8—8	7—4	14	日体
日体	11	5—2	6—1	3	東京教大

【日体】	得		【東女】	得
鈴木	0	GK	前島	0
長谷川	0	GK	鍋田	0
岩本	3	FP	西田	6
小林	1	FP	赤岸	3
堂本	0	FP	篠倉	0
西尾	0	FP	高橋	0
坂上	0	FP	橘	2
坂本	5	FP	寺田	1
菅井	0	FP	野口	0
松本	3	FP	山口	3
木元	0	FP	松岡	0
藤山	0	FP	田中	0
	12	（2）7MT（1）		15

【順位】①東京女体大②日体③東京教大④東京学芸大⑤日本女子体大

じっと我慢の34年　法政

☆……34年目につかんだ「主役」の座。法政はどうしてもそれを一人（単独）で果したかった。

早大戦。負ければ中大と並びの優勝も考えられる。残り10秒で16—17と苦しい。ここで得たフリースロー、村田が持ち川島、柳、長谷川らのアタッカーは全員左に固まる。早大ディフェンスもそれに合わせて寄った。スキの生まれた右サイドへ上滝が走りこみパスが渡る。次の瞬間、白いゴールネットは同点のゲットにゆれていた。

☆……土たん場でみせた法政のこのプレーは、34年間の結晶といえた。有力選手を集めながらその個人技を一つにまとめられずいくども優勝のチャンスを逃していた法政が、今シーズンは見違えるようなチームワークで勝ち星をあげた。18シーズンぶりに日体を破り、中大を降したのもすべて多彩なセットプレーが勝因である。

☆……安藤純光監督の胴あげ（＝写真）は高く舞いあがりすぎ何度もフロアへ落ちそうになった。スタンドには戦前卒業の林和氏の姿もある。優勝杯を渡す慶大OBの西敏郎関東学連会長は昭和15・16年頃生まれたての法政を指導した人。感無量であったろう。

盟友意識の強い戦前のOBたちにとってこの優勝は「たんに法政だけの喜びではない」（日体OB・荒川清美氏）のである。

古豪法政の手によって関東学生リーグは新たなページを開いたのだ……。

宿敵から初の1勝　東女体大

☆……勝つも涙、負けるも涙。高校女子の試合後にみかける感激と悔しさの交錯が久しぶりに（?）大学リーグでみられた。

第6日の東女体大（＝写真）と日体。東女体大の前身・音体時代から数えてこの日まで日体の29戦無敗（関東学生）。東女体大は30戦目にして初めて得た勝利だ。しかも日体の「90連勝阻止」というおまけもつけて—。

☆……「東女はタテの攻撃がいちだんと鋭くなった。ウチは卒業生の痛手が埋まっていない」と話す日体・藤原侑監督の言葉に東女・高野亮監督は微笑を浮かべて肯く。おそらく高野監督に聞いても主語が入れ替っただけだろう。互いに已れを知り相手チームを知りつくしているのだ。選手の興奮をヨソに女子学生界のレベルアップを無二の目標とし情熱を燃やす二人にとって90連勝を破った、破られたなどという話は小さなコトだったのかもしれない。（杉山）

中京、堂々の6連覇 女子も中京連勝

東　海

◇4月21日～5月5日◇愛知県体育館ほか◇1部6校、2部8校

予想どおり中京、名城が圧倒的な力をみせて勝ち進み、10シーズン連続して両校の優勝争いとなった。最終戦での顔合せは、名城が前半10分まで松井、江崎の好技で4－2とリードしたが、中京は前半11分布垣のゲットを口火に20分までに連続5ゴールして逆転、後半もチャンスを確実に活かし、終盤は一方的な経過となった。

中京は6シーズン連続26度目の優勝、名城は6シーズンつづけて2位である。

3位以下は激しい星のつぶしあいとなり愛知教大が名大以下をおさえた。

2部は4校づつ2組の予選リーグのあと、順位決定リーグを行い中部工大が接戦を切り抜け6度目の優勝を決めた。

▽1部

中　京 27（12－8、15－5）13 愛知教大
名　大 22（16－8、6－4）12 岐阜大
名　城 23（12－2、11－5）7 南　山
名　城 32（20－5、12－2）7 愛知教大
岐阜大 13（7－7、6－5）12 南　山
中　京 25（12－3、13－1）4 名　大
名　城 30（13－2、17－4）6 名　大
愛知教大 14（9－6、5－6）12 南　山
中　京 26（10－3、16－3）6 岐阜大
中　京 24（16－3、8－2）5 南　山
愛知教大 18（9－4、9－4）8 名　大
名　城 25（15－5、10－4）9 岐阜大
名　大 13（6－7、7－5）12 南　山
岐阜大 18（11－9、7－9）18 愛知教大（引き分け）
中　京 22（13－3、9－5）8 名　城

得	【名城】			【中京】	得
0	高橋	GK		福井	0
0	杉浦	GK		平田	0
3	松井	FP		小川	0
2	江崎	FP		成田	3
1	田中	FP		夏目	3
0	石塚	FP		梶村	5
0	森	FP		小林	1
2	山本	FP		布垣	6
0	長塚	FP		伊賀	0
0	佐藤	FP		三宅	1
0	杉山	FP		岸見	3
0	岩田	FP		佐藤	0

（審・宇津野、松井）

22（4）7MT（1）8

【順位】①中京5戦全勝②名城4勝1敗③愛知教大2勝1分2敗④名大2勝3敗⑤岐阜大1勝1分3敗⑥南山5敗

▽2部予選ラウンドA組

静岡大 19－18 三重大
中部工大 不戦勝 愛知工大
中部工大 21－13 静岡大
三重大 不戦勝 愛知工大
中部工大 14－13 三重大
静岡大 不戦勝 愛知工大

▽同B組

愛知大 14－8 名古屋工大
滋賀大 13－12 名古屋学院
名古屋工大 14－12 滋賀大
愛知大 17－14 名古屋学院
愛知大 22－5 滋賀大
名古屋工大 16－9 名古屋学院

▽同1～4位決定リーグ

中部工大 12－10 愛知大
静岡大 17－9 名古屋工大
中部工大 23－5 名古屋工大
愛知大 18－12 静岡大

中部工大×静岡大、愛知大×名古屋工大は予選の記録を適用

【2部順位】①中部工大②愛知大③静岡大④名古屋工大

▽同5～8位決定リーグ

三重大 26－10 滋賀大
名古屋学院 不戦勝 愛知工大
三重大 24－13 名古屋学院
滋賀大 不戦勝 愛知工大

三重大×愛知工大、名古屋学院×滋賀大は予選の記録を適用

【順位】⑤三重大⑥滋賀大⑦名古屋学院⑧愛知工大

▽1・2部入れ替え戦（5月13日南山大）

南　山（1部）24（14－3、10－3）6 中部工大（2部）

東　海（女子）

◇4月21日～5月5日◇名古屋・天神山球技場◇参加4校

4校による2回戦総当り制を初採用。第1次リーグでは各校とも攻守に安定感がなく混戦模様だったが、第2次リーグからは力の差があらわれ、特に中京の攻撃力は光り全勝、3シーズン連続13回目の優勝を飾った。

中　京 12（7－2、5－5）7 愛知教大
中京女 14（8－3、6－6）9 岐阜大
中　京 13（8－3、5－5）8 岐阜大
愛知教大 7（2－2、5－3）5 中京女
中　京 15（8－1、7－0）1 中京女
愛知教大 7（3－6、4－1）7 岐阜大（引き分け）
中　京 8（4－5、4－1）6 愛知教大
岐阜大 6（2－1、4－1）2 中京女
中　京 10（6－3、4－4）7 岐阜大
愛知教大 8（5－4、3－2）6 中京女
中　京 9（6－5、3－2）7 中京女
岐阜大 11（5－2、6－3）5 愛知教大

【順位】①中京勝ち点3（6戦全勝）②岐阜大1・25（2勝1分3敗、得失点差マイナス3）③愛知教大1・25（2勝1分3敗、マイナス9）④中京女大0・5（1勝5敗）

大阪体大が3連勝

関西学生・速報

関西学生春季リーグ戦（1部）は5月3日から27日まで初昇格の近大をはじめ7大学が参加、9日間にわたって大阪・東淀川体育館などで行われた。

有力とみられた大阪経大は第6日に5勝1敗で全日程を終了、第7日大阪体大（5勝）×京都産大（4勝1敗）戦に注目が集まったが大阪体大は前半たくみにリードを奪い、後半も鋭い攻撃で得点を重ね13－5で快勝、6戦全勝となり3シーズン連続優勝を飾った。

結果的に〝決勝〟となった大阪体大×大阪経大戦（第5日）は、予想どおり、1点を争う大接戦、大阪体大が終盤、貴重な決勝点をあげ11－10で大阪経大を制した。

女子は5大学が参加、甲子園、武庫川女、大体大が大激戦を演じ甲子園短大が武庫川女を5－2、大体大を7－6で降し4戦全勝、3シーズン連続、通算7度目の優勝をとげた。

（関西学生リーグの詳報は次号）

NHKテレビスポーツ教室

今年のNHK教育テレビ「スポーツ教室・ハンドボール」は6月17日に第1回、同24日に第2回が放映される。放送時間はいずれも午前9時30分から1時間。再放送は23日と30日午後6時から。指導は竹野奉昭氏。

ハンドボールナショナルチームに関する研究・才4報
『スウエーデンナショナルとの体力比較』

東京大学　広田公一
日本体育大学　北川勇喜
自治医科大学　渡辺慶寿
東京大学　山本恵三
星薬科大学　竹内正雄

▼目的

われわれは過去数回にわたり日本ナショナルチーム候補選手の体力測定を実施してきた。

その結果、この10年間に日本代表選手の体格は著しく向上していることがわかった①。

一九六九年、第7回世界ハンドボール選手権大会において日本の成績は参加16ヶ国中10位という結果であった。この時の日本チームの体力を身長、体重、ローレル指数から国際的に比較したとき、どのレベルにあるかを検討した結果、身長では世界選手権出場チームの平均値と等しくなっているが、身体の充実度をあらわすローレル指数からみると参加国中最も劣っており、日本チーム選手の体型が細長型であることが判明した。そして、それがハンドボールの試合に不利な条件であることを指摘した①。

ところでこのたび親善試合のため昭和46年9月世界一流チームであるスエーデンナショナルチームが来日した。対戦した日本ナショナルチームとの対戦成績は1勝4敗という結果に終わり、主観的ではあるが戦力や技術等を総合的にみて、日本チームは未だやや劣るということが観察された。

幸いにも、われわれはスエーデンチームの体力を測定する機会を得たのでこれを日本ナショナルチームと比較検討をおこない、体力の面から今後の日本ナショナルチーム編成のための手がかりとなる資料づくりとした。

▼方法

来日したスエーデンチーム選手17名（GK2名を含む）について昭和46年9月17日駒沢球技場において測定を実施し、この比較対象として日本ナショナルチーム候補選手（14名）を昭和46年10月5日名古屋市大同製鋼体育館において測定を実施した。

測定項目は以下の通りである。

形態測定項目

身長、体重、胸囲、指極、手長、上腕囲（伸展囲、屈曲囲）、手頸囲皮下脂肪厚

機能測定項目

背筋力、握力、垂直とび、全身反応時間、HST（日本選手のみ）、100m疾走(日本選手のみ)、ハンドボール投げ（女子用ボール）

なお、手長については⑤、A：手背の手頸に近い陥凹部の最深部から第3指尖までの長さ、B：手を広げた状態で第1指尖より第5指尖までの長さをそれぞれ測定した。

▼結果

1、形態について

形態測定の結果については第1表（a、b）の通りである。身長・体重・胸囲をはじめとして、特に、上肢部位の長育の測定に重点をおいて行はったものである。

身長については、スエーデン選手186.0±6.27cmに対し、日本選手180.1±4.64cmと実に6cmの差が、また、体重ではスエーデン選手83.1±6.94kg、日本選手74.9±4.92kgと9kgの差が各に認められた。身長・体重が日本選手より大きいことは他の形態的な項目についても優れていることが当然予想される。

まず周囲径についてみると、胸囲ではスエーデン選手100.0±4.34cm、日本選手95.6±2.34cmと4.4cmの差が、上腕囲では伸展囲（左右平均値）がスエーデン選手30.1±1.49cm、日本選手27.8±1.72cm、屈曲囲（左右平均値）がスエーデン選手33.7±1.70cm、日本選手31.0±1.47cmと2cmの差がそれぞれ認められた。手頸囲（左右平均値）ではスエーデン選手18.1±0.69cm、日本選手17.5±0.54cmとスエーデン選手が大きく、周囲経でもスエーデン選手がより優れていることが認められた。

また、ハンドボール競技にとって重要なファクターと考えられる上肢の長育についてみると、指極ではスエーデン選手194.0±10.33cm、日本選手182.7±5.99cmと12cmスエーデン選手が長く、上肢長（左右平均値）ではスエーデン選手82.5±4.58cm、日本選手76.2±3.11cmとこれもスエーデン選手が約8cm長かった。手の大きさとしての手長（A）ではスエーデン選手23.4±2.18cm、日本選手22.2±0.81cm、また、手長（B）ではスエーデン選手21.2±1.46cm、日本選手19.3±1.09cmとそれぞれスエ

表 1—a　スウエーデン選手の形態

選手名 ＼ 項目	身長	体重	胸囲	指極	左右平均上肢長	手長（右）		上腕囲 左右平均		左右平均手首囲	皮脂厚
単位	cm	kg	cm	cm	cm	B cm	A	屈 cm	伸	cm	mm
F・ストリョーム（GK）	188.0	75.5	94.0	196.0	83.8	24.2	22.7	21.0	29.3	17.6	18.0
O・オルソン	190.4	89.0	103.0	201.0	87.0	23.3	20.7	35.8	32.0	19.4	16.7
D・エリクソン	186.2	81.0	101.0	192.0	81.5	20.3	2011	33.3	30.5	17.8	19.3
B・ヨハンソン	191.0	87.0	103.0	192.0	80.5	——	——	30.1	30.9	18.8	16.0
K・キエル	183.7	82.0	96.5	196.0	82.0	——	——	35.1	31.8	18.7	19.0
G・セーゲルスタット	186.1	83.5	100.0	196.0	84.8	——	——	35.7	31.3	18.3	23.7
L・エリクソン	190.6	86.5	100.0	199.0	38.0	22.3	20.8	32.0	28.8	17.9	20.0
T・ペールソン	191.0	90.0	99.0	205.0	88.0	25.7	21.9	35.5	30.0	18.1	17.0
M・コック	182.0	79.0	97.5	181.0	77.0	22.3	18.8	32.2	29.7	17.5	18.3
ビヨルン・アンデルソン	198.0	102.0	110.8	220.2	93.7	27.4	23.8	37.0	32.9	19.5	28.7
B・スヨテルベルグ	174.4	81.0	101.5	188.0	79.8	——	——	33.0	28.8	17.5	16.7
L・カールソン（GK）	183.3	77.5	95.0	197.0	82.3	——	——	31.8	27.1	17.4	14.0
ボー・アンデルソン	176.4	76.0	91.5	178.0	75.5	21.7	20.4	32.3	28.0	17.0	12.5
J・ヨソンソ	187.2	75.0	97.0	179.0	75.8	——	——	32.8	30.5	17.5	18.0
J・フィツシェルストリョーム	176.1	76.0	101.0	186.0	79.5	——	——	33.2	29.5	18.2	15.3
B・ヨンソン	192.0	88.0	102.0	198.0	84.5	——	——	33.5	30.7	18.0	20.7
平均	186.0	83.1	100.0	194.0	82.5	23.4	21.2	33.7	30.1	18.1	18.4
標準偏差	6.27	6.94	4.34	10.33	4.58	2.18	1.46	1.70	1.49	0.69	3.72

表 1—b　日本選手の形態

選手名 ＼ 項目	身長	体重	胸囲	指極	左右平均上肢長	手長（右）		上腕囲 左右平均		左右平均手首囲	皮脂厚
単位	cm	kg	cm	cm	cm	B cm	A	屈 cm	伸	cm	mm
下里敏彦	184.0	73.0	95.0	183.0	78.4	22.2	20.0	28.5	21.0	17.3	7.0
大村久	178.0	73.0	95.0	184.2	78.0	23.3	21.3	30.0	26.2	19.9	7.0
本田洋	178.0	75.0	98.0	184.0	77.0	21.3	19.4	31.8	28.3	17.1	6.5
藤中憲二	178.0	72.0	94.0	184.0	76.2	22.4	20.0	29.2	27.0	17.6	5.8
野田清	168.0	65.0	98.0	168.5	69.8	20.4	17.7	30.8	27.9	16.6	6.5
木野実	180.0	75.0	95.0	178.0	76.2	23.3	20.3	32.5	31.0	17.7	6.2
飯田誠行	187.0	79.0	92.0	193.0	81.1	23.3	20.4	31.3	28.3	17.9	7.2
新実俊夫	180.0	77.0	97.0	182.2	76.1	21.3	19.5	33.6	30.8	18.3	10.2
早川清孝	180.0	73.0	95.0	181.7	76.1	22.3	19.1	30.0	27.1	17.3	2.7
斎藤光男	183.0	83.0	99.0	189.8	80.5	21.3	19.3	33.3	30.8	18.3	6.5
東一敏	179.0	70.0	91.0	183.0	77.1	22.5	18.3	29.6	26.5	16.6	5.7
有永修二	187.0	84.0	98.0	189.7	80.1	21.8	18.8	31.9	27.9	17.0	8.5
氷海正行	180.0	75.0	97.0	179.0	75.6	22.2	18.4	30.8	26.7	17.8	6.3
中井武三	180.0	73.0	95.0	182.7	77.1	22.5	17.4	30.4	26.7	17.4	7.2
平均	180.1	74.9	95.6	182.7	76.2	22.2	19.3	31.0	27.8	17.5	7.0
標準偏差	4.64	4.92	2.34	5.99	3.11	0.86	1.09	1.47	1.22	0.54	3.14

ーデン選手が優れていた。

　しかしながら、皮下脂肪厚（上胸背部、肩甲骨下端、腹部の平均値）では、スエーデン選手が18.4±3.72㎜であるのに対し、日本選手7.0±1.14㎜とスエーデン選手が日本選手より皮下脂肪の沈着が著しく厚いことが認められているがこれが競技にどのように影響するのが興味ある材料であろう。

　2、機能について

　機能について測定結果は第2表（a、b）に示している。

　総合筋力としての背筋力では、スエーデン選手が156.3±16.38kgに対して、日本選手が195.2±16.14kgであった。また、握力（左右平均値）ではスエーデン選手55.1±5.93kg、日本選手57.9±5.04kgであり、筋力ではそれぞれ日本選手がスエーデン選手より優れている。さらに、パワーとして指標とされている垂直とびでは、スエーデン選手50.4±6.95cm、日本選手62.1±5.23cmと日本選手の方がスエーデン選手より12cmも優れている結果が認められる。

　一方、ハンドボール投げについてみると、スエーデン選手49.2±4.53mに対し、日本選手47.4±2.37mとスエーデン選手が約3m優れている成績を示した。敏しよう性については全身反応時間を測定したが、それによるとスエーデン選手が0.30±0.03sec、日本選

手0.35±0.03 secとスエーデン選手の方が優れていた結果が出たいのは以外であった。

その他、全身持久性の指標であるＨＳＴ、100ｍ疾走を実施する予定であったが、スエーデンチームの時間的都合により測定することが出来なかったことは残念であった。

▼考察

日本選手については、前回報告①した日本代表選手の体力の推移のなかでも述べたごとく、過去10数年前とくらべ、体格の向上は著しい。特に、身長では10 cm以上の伸びを示し、第7回世界選手権に出場した各国全選手の平均身長と等しいまでになっている。これは外国選手と対戦するための意図的な大型化であることはいうまでもないが、それでも尚今回来日したスエーデンチーム（身長では第7回世界選手権大会出場チームのうち最高値を示す187・2 cmであった）に比べ6 cmの差があることは、世界の一流チームと対戦する場合に戦力上大きな問題として残るであろう。これが同じボールゲームであるバレーボールが、その広い底辺の上に立ってそん色のない大型化を達成し、このことによって外国の一流チームと互角以上の成績の試合ができるようになった事実とその向上をみるとき、今後の日本のハンドボールチームの示向性に一つの示唆を与えるものとして受けとめることができる。

身長、体重が秀れているということは当然その他の形態についても大きな差がある上肢長をみてもわかるように、スウエーデン選手が日本選手より有意な値を示していることは、相手チームによりいろいろな場面で策戦的に有利な条件をつくりあげていることが予想される。特に日本選手と比較してもボールスピードもあり、ボールの飛距離にも優れている。このような長さはハンドボール選手として不可欠な要素である。

機能についてみると、脊筋力、握力はいずれも日本選手が大きな差をもって優れている。

豊島②、北川③等らは筋力とボールスピードとの間に高い相関があることを報告しており、日本選手にとって有利な材料の一つであるが、実際の遠投力ではスエーデン選手が、日本選手より長い飛距離を示している。スエーデン選手の指極、上肢長が日本選手より優れていることが、このような結果をきたした一因ではなかろうかと考えている。また、パワーの指標としてこの垂直とびでは、日本選手がスエーデン選手より12 cmもよい成績を示している。垂直とびが事実12 cmも優れていれば、身長や指極の労勢を十分に補える筈であるが一回だけのパワーは高いが、それを何回も繰返えす持久性に乏しいのか、また、技術ジャンプ力を生した面の不足が負け越すという成績をまねいたのか、この点多面的な分析が必要であろう。しかし、日本のバレーボール選手をみると東京オリンピックの時点で垂直とびの値が77.7±6.1cmを示していることを考えれば④、ハンドボール選手に一層のトレーニング効果が期待できるし、是非実施しなければなるまい。

これらのことから、機能的には筋力、垂直とび等では日本選手の方が優れている点が多いが、ハンドボール投げ、全身反応時間等では劣っており、体力の機能面ではハンドボールに必要な能力の強

表 2—a　スムエーデン選手の機能

選手名 ＼ 項目	背筋力	握力 左右平均	垂直とび	反応時間	ハンドボール投女子用
単位	kg	kg	cm	m/sec	m
F・ストリョーム	143.0	61.5	50	0.30	46
O・オルソン	164.0	58.0	50	0.32	53
D・エリクソン	136.0	51.0	47	——	43
B・ヨハンソン	156.0	58.5	47	0.26	51
K・キエル	160.0	64.0	—	0.26	53
G・セーゲルスタット	165.0	64.5	47	0.31	45
L・エリクソン	135.0	50.5	70	0.33	52
T・ペールソン	181.0	53.0	50	0.34	55
M・コック	155.0	48.3	57	0.28	48
ビル・アンデルソン	——	60.5	—	0.38	—
B・スヨデルベルグ	185.0	57.0	45	0.26	59
L・カールソン	142.0	47.3	53	0.29	42
ボー・アンデルソン	185.0	59.0	51	0.29	46
J・ヨンソン	144.0	52.3	52	0.31	49
J・フィツシェルストリョーム	142.0	44.0	48	0.31	50
B・ヨンソン	151.0	51.5	37	0.28	47
平均	156.3	55.1	50.4	0.301	49.2
標準偏差	16.38	5.93	6.95	0.031	4.52

化、養成が必要ではないかと思われる。

以上、この10年間の日本選手に著しい体格の向上はあったが、スエーデン選手に比較して形態面では尚劣っている。これに反して、機能面では優れている面も多く、体格の劣勢をカバーして試合を有利に進める素地は作られつつある。がしかし、いずれにしても日本チームの1勝4敗という結果は、作戦・技能・体力という面において一層の努力が望まれるわけである。とくに、体力についてはスエーデンチームに相当する体格が必要であるが、日本のハンドボール界の現状を考えれば、そのような体格を持つチームを編成することは無理である。従って、体力ー機能形態がネガティブな状態を超越する能力が必要とされ、筋力、パワーあるいは60分の試合を充分に活動できる能力としての全身持久性等の強化養成が当然必要とされるものである。

表2—b　日本選手の機能

選手名 ＼ 項目（単位）	背筋力 (kg)	握力左右平均 (kg)	垂直とび (cm)	反応時間 (m sec)	ハンドボール投（女子用） (m)	HBS (点)	100m競走 (sec)
下里敏彦	180	55.0	54	0.37	44	88	13.6
大村　久	200	——	65	0.35	50	98	12.6
本田　洋	210	56.5	71	0.30	44	102	12.8
藤中憲二	198	56.0	63	0.31	46	111	12.7
野田　清	170	——	64	0.37	46	118	12.2
木野　実	205	60.0	58	0.34	46	136	12.6
飯田誠行	200	59.7	55	0.35	47	115	12.8
新実俊夫	200	66.5	64	0.37	53	123	12.5
早川清孝	210	52.5	65	0.36	48	106	12.5
斎藤光男	220	68.5	70	0.35	48	132	12.5
東　一敏	190	52.0	58	0.36	50	112	12.9
有永修二	200	60.0	61	0.31	47	99	13.0
氷海正行	165	54.0	55	0.34	44	112	13.3
中井武三	170	54.3	66	0.37	49	97	11.6
平　均	195.2	57.9	62.1	0.35	47.4	112.1	12.7
標準偏差	16.14	5.04	5.23	0.03	2.37	13.26	0.51

日本・スウエーデン国際試合
（昭和46年9月・各地）

スウェーデン 18（10—3、8—10）13 全日本
スウェーデン 15（8—8、7—5）13 全日本
全日本 13（6—6、7—5）11 スウェーデン
スウェーデン 11（4—3、7—3）6 全日本
スウェーデン 19—15 関東学生
スウェーデン 25—11 本田技研
スウェーデン 28—9 全熊本
（以上7試合）

文献

①広田公一、他：ハンドボールナショナルチームに関する研究、第3報、ハンドボール№86、1971

②豊島進太郎、他：ハンドボールにおける投球動作の研究、体育学研究、12(5)202、1968

③北川勇喜他：ハンドボールにおけるトレーニング、体育学研究1970

④朝比奈一男、他：バレーボール東京オリンピックスポーツ科学研究報告260～278、1965、日本体育協会、スポーツ科学研究委員会

⑤スポーツ科学講座9、スポーツマンの体力測定、松田岩男他、大修館

本誌にこれまで発表された「ハンドボール・ナショナルチームに関する研究」は次のとおりである。

▽第1報（76号＝45年6月）「ナショナルチーム候補選手の体力について」

▽第2報（78号＝45年8月）「外国遠征下におけるコンディション」

▽第3報（86号＝46年5月）「昭和30～44年に至るハンドボール日本代表選手の体力の推移」

中部学　本部推せん委を発表

日本協会中学部はこのほど本部推せん委員（中央委員）6名を決め発表した。栗脇担当常務理事が東海選出のことから、いずれも東海地区所属である。また、未定だった北海道選出委員は宮崎光市氏に決まった。

【中学部中央委員】林　正信、河野好央、長谷川信夫、湯山　希、石野　誠、都梅芳治。

普及委員に香積氏　日本協会普及部では欠員だった中学畑からの中央委員（本部推せん委員）に香積見一氏を決め発表した。

☆★☆★☆★☆

海外トピックス

杉山　茂
（NHK運動部）

ステンツエル（ユーゴコーチ）西独へ

ヨーロッパ各国は7人制シーズンが閉幕し、ほっと一息ついているところだが、全国リーグの所属クラブは早くも来シーズンへの補強に入っている。日本のプロ野球・ストーブリーグなみの話題が西ドイツの「週刊ハンドボール」誌でも目立って多いが、そのなかで驚いたのは、ユーゴのオリンピック優勝監督ウラド・ステンツエル氏が西ドイツ全国リーグ所属の「フェニックス・エッセン」のコーチとして招かれることが濃厚になったというニュースだ。

西ドイツ球界に身をおいたことのある全日本・近森克彦選手は「おそらく多額の参稼報酬が用意されているだろう」という。

今秋来日の決まったユーゴをいったい誰が卒いて羽田におりたつのだろうか。日本のファンにとっても興味深いところである。

ソビエトで「45秒」ルール

同点の場合の7MT結着方式（チェコ、ユーゴ）、チャージドタイムアウト（ポーランド）などヨーロッパ各国（特に東欧諸国）はいろいろと新しいルールの実験を試みているが、4月末キエフで行われたソビエト選手権リーグでは「45秒ルール」が採用された。

これはマイボールとなってハーフラインを越し相手陣内に入った時から45秒以内にシュートを放たねばならぬというものである。

反則を受けた場合どうなるのかといった詳しいことは不明だが、注目してよい動きであろう。

東ドイツ、無難な出来
〜スウェーデン招待〜

今季絶好調のスウェーデンが東ドイツ、ポーランドを迎えての3国対抗は4月10日から行われ、各国ともベテラン、新人半々の構成によるチームによって接戦を演じたが、東ドイツがスウェーデンに逆転勝ち首位となった。

スウェーデン 19（11−9, 8−10）19 ポーランド
引き分け
東ドイツ 18（9−6, 9−4）10 ポーランド
東ドイツ 17（4−7, 13−7）14 スウェーデン
東ドイツ 16−13 スウェーデン ジュニア
ポーランド 16−14 スウェーデン ジュニア

フランス、男子で優勝
〜国際学生スポーツ〜

国際学生スポーツ連盟（ISF）＝国際大学スポーツ連合（FISU）とは別組織＝による国際ハンドボール・トーナメントが4月28日からフランスのボルドーで行われ、男子は14ケ国15チーム、女子は6ケ国7チームが参加した。

男子はこのところ愛好者が激増しているフランスAが好調に勝ち進み優勝、女子は西ドイツがオランダを降して首位となった。

▽男子準々決勝
オランダ 10−5 ルクセンブルグ
スペイン 8−7 西ドイツ
フランスA 13−4 イタリア
ユーゴ 11−5 スイス
▽同準決勝
スペイン 11−10 ユーゴ
フランス 12−6 オランダ
▽同3位決定戦
ユーゴ 15−12 オランダ
▽同決勝
フランス 20−17 スペイン
▽女子準々決勝
フランスA 9−4 フランスB
西ドイツ 11−5 イタリア
オランダ 10−1 オーストリア
ユーゴ 5−3 フランスC
▽同準決勝
西ドイツ 9−5 ユーゴ
オランダ 7−4 フランスA
▽同3位決定戦
ユーゴ 20−6 フランスA
▽同決勝
西ドイツ 8−3 オランダ

【編集部・注】この大会は国際ハンドボール界の行事日程に加っていない催しだが、ヨーロッパ各国のほかイスラエル、コンゴが男女各代表を送るなど盛会だった。本誌の調べでは昭和41年（一九六六）にオランダのドーケンヘムンアで同ようの大会が行われている。

ユーゴの陣容 本誌前号既報のユーゴ国際トーナメント（3月・リュブリアナ、4ケ国参加）で優勝したユーゴの陣容が伝えられた。オリンピックで主将をつとめたホルバトは軍隊にとられている。このメンバーの大半が9月に来日する予定だ。

▽GK ニムス、アルスラナジチ、ゾルコ ▽FP プリバニチ、ラブルニチ、ミスコドチ、ミルヤク、ラザレビチ、ポポビチ、ヴイドヴィッチ、ラドレノビッチ、カラリク、セレク、ファイフリッチ、ブガルスキー、ブリバニッチ。

世界女子地域予選（続報）

ソビエト 17−7 ブルガリア
ソビエト 12−10 ブルガリア

女子は徳山が快勝
男子は岩国初

第24回　中国高校

◇5月13、14日◇鳥取・米子南商高グランド◇参加男16、女16校。

今年度のブロック高校選手権のトップを飾る大会。

男子は山口勢が安定した力を示し上位へ進出、決勝は岩国―下関中央工と同県の顔合せとなり、岩国が前半から優位に立ち、下関も後半よく粘ったが、結局、岩国の先行が最後にモノをいい、初優勝を飾った。山口代表の優勝は2年ぶり17度目。

女子は山陽勢がベストエイトを占めて、3県のせりあいとなったが、徳山（山口）が緒戦から得点は二桁、失点は4点以下におさえるという抜群の強さをみせ、決勝でも、ライバルの山陽女を降して勝ちあがってきた広島第一女商を一方的に押しまくり快勝、9年ぶり4度目の優勝を決めた。山口代表の優勝は2年連続7度目、男女制覇は6度目のことである。

▽男子1回戦

岩国（山口）17（7―0、10―5）5 山陽（広島）

松江南（島根）19（5―6、9―8…2―1、3―1）16 倉吉工（鳥取）

天城（岡山）15（7―4、8―9）13 浜田水産（島根）

宇部工（山口）11（5―0、6―3）3 広（広島）

呉工（広島）22（13―0、9―3）3 境（鳥取）

早鞆（山口）10（5―1、5―7）8 倉敷商（岡山）

下関中央工（山口）12（2―2、10―5）7 津山工（岡山）

呉三津田（広島）20（12―8、8―8）16 飯南（島根）

▽同準々決勝

岩国 22（10―4、12―4）8 松江南

宇部工 16（6―3、10―4）7 天城

呉工 14（5―4、9―1）5 早鞆

下関中央工 22（12―3、10―5）8 呉三津田

▽同準決勝

岩国 12（3―1、9―5）6 宇部工

下関中央工 22（12―4、10―7）11 呉工

▽同決勝

岩国 11（6―3、5―4）7 下関中央工

▽女子1回戦

徳山（山口）15（7―1、8―0）1 松江市女（島根）

津山商（岡山）6（6―1、0―4）5 呉豊栄（広島）

真備（岡山）4（1―2、3―1）3 進徳女（広島）

岩国（山口）13（8―1、5―3）4 浜田商（島根）

広島一女商（広島）11（5―3、6―1）4 防府商（山口）

岡山女（岡山）2（0―0、2―0）0 倉吉産業（鳥取）

金川（岡山）6（2―3、4―2）5 松江家政（島根）

山陽女（広島）18（13―1、5―0）1 倉吉西（鳥取）

▽同準々決勝

徳山 13（6―1、7―1）2 津山商

真備 8（4―3、4―2）5 岩国

広島第一女商 16（12―4、4―3）7 岡山女

山陽女 21（8―2、13―2）4 金川

▽同準決勝

広島第一女商 10（2―4、6―4…0―0、2―0）8 山陽女

徳山 12（8―3、4―1）4 真備

▽同決勝

徳山 12（5―0、7―2）2 広島第一女商

各地の記録

三春台ク、勝ち抜く

▼神奈川県一般男子春季選手権（5月・横浜東高）

▽準々決勝

日本発条 24―9 法政工ク

神奈川教員団 28―10 蒔田ク

三春台ク 17―10 法政二ク

セントラル自動車 21―3 東ク

▽準決勝

三春台ク 17（延）14 神奈川教員団

セントラル自動車 13―7 日本発条

▽決勝

三春台ク 9（6―6、3―1）7 セントラル自動車

男子で市商が大勝

▼熊本県高校トーナメント（4月・第一工高）

▽男子準々決勝

第一工 26―17 東海二

市商 26―13 宇土

マリスト 11―10 済々黌

水俣工 23―16 鎮西

▽同準決勝

市商 17―12 第一工

マリスト 12―11 水俣工

▽同決勝

市商 28（10―6、18―8）14 マリスト

▽女子準々決勝

尚絅 20―2 八代農

女商 17―1 菊池農

九女 14―8 鹿本商工

熊本市立 10―7 天草

▽同準決勝

女商 19―0 尚絅

熊本市立 10（延）9 九女

▽同決勝

女商 12（5―3、7―6）9 熊本市立

市内大会は第一工

▼熊本市内高校親睦トーナメント（5月・熊本女商）

▽男子準決戦

マリスト 14（延）13 済々黌

第一工 20―9 鎮西

▽同決勝

第一工 17―16 マリスト

▽女子準決勝

熊本女商 13―2 尚絅

熊本市立 9―7 九州女学院

▽同決勝

熊本女商 11―5 熊本市立

海上自衛隊勢上位占める

▼千葉県実業団春季リーグ戦（5月・市原市）＝男子のみ

▽1部

海自4空群 18―11 住友千葉化学

館山航空隊 11―6 丸善石油千葉

海自3術校 21―13 海自4空群

丸善石油千葉 14―12 住友千葉化学

海自3術校 12―5 館山航空隊

海自4空群 19―15 丸善石油千葉

館山航空隊 21―11 住友千葉化学

海自3術校 17―12 丸善石油千葉

海自4空群 22―12 館山航空隊

海自3術校 20―13 住友千葉化学

【順位】①海上自衛隊第3術科校4戦全勝②海上自衛隊4空群3勝1敗③海上自衛隊館山航空隊2勝2敗④丸善石油千葉1勝3敗⑤住友千葉化学4敗＝夏季リーグ2部へ

【2部順位】①陸上自衛隊下志津4戦全勝＝夏季リーグ1部へ②三井石油3勝1敗③KKヤトロン④陸上自衛隊松戸教導隊⑤航空自衛隊峯岡

本誌編集委員を全国募集

本誌（日本協会編集部）では創刊以来全国に亘るハンドボール活動のニュースを誌面に網らするよう研究を重ねておりますが、競技団体という性格からか、リポートなどに専念していただくかたを探しだすのに苦労しているのが実情です。

そこで、本年度から新しい試みとして、各県協会役員を含めたすべての読者のなかから「編集委員」を公募することにしました。

「編集委員」は居住県周辺のハンドボールニュースの送稿（大会記録は除く）、本部からの依頼による原稿の執筆あるいは取材などをしていただくもので、在京の希望者には本誌編集の助力もお願いしたいと思います。御希望のかたは、氏名職業、年令、現住所、同電話番号などを明記のうえ7月31日までに日本協会編集部までお届け下さい（用紙自由）。また、身近かに適任者が居る場合は、ぜひご推せん下さい。

各県・加盟団体関係者へ

市大会以上の大会記録は今後も各協会、各加盟団体から積極的に御送稿下さい。

和歌山教員、丸善石油制す

▼和歌山県春季総合選手権（4月）

▽男子準々決勝
和歌山教員 26－12 桐蔭ＯＢ
住友金属 22－8 和歌山高専
丸善石油 29－3 笠田高
和商ク 19－11 御坊商工高

▽同準決勝
和歌山教員 23－16 住友金属
丸善石油 18－12 和商ク

▽同決勝
和歌山教員 15（6－6、9－6）12 丸善石油

▽女子1回戦（2試合）
御坊商工高 14－1 笠田高
粉河高 6－2 県和歌山商

▽同準決勝
御坊商工高 11－5 和商ク
粉河高 8－3 御坊ＯＧ

▽同決勝
粉河高 9（6－1、3－3）4 御坊商工高

国学院、男女優勝成らず

▼第19回栃木県高校大会（4月・国学院栃木高）

▽男子予選リーグ順位・A組①国学院栃木②足利工③矢栃中央④石橋⑤足利工大附属

▽同B組①烏山②足利商③馬頭④足利⑤宇都宮工

▽同3・4位決定戦
足利工 13－10 足利商

▽同決勝
国学院栃木 14（3－3、11－3）6 烏山

▽女子決勝リーグ
栃木女 17－2 足利高
小山城南 14－3 佐野女
馬頭 13－4 足利女
国学院栃木 26－3 足利商
小山城南 18－5 馬頭
栃木女 12－2 佐野女
国学院栃木 30－3 足利女
佐野女 13－4 足利商
栃木女 6（延）6 小山城南
国学院栃木 21－4 馬頭
栃木女 7－4 国学院栃木
小山城南 18－2 足利女
佐野女 9－7 馬頭
足利商 7－4 足利女
小山城南 18－2 足利商
栃木女 32－0 足利女
国学院栃木 21－3 佐野女
馬頭 9－7 足利商
国学院栃木 10－4 小山城南
佐野女 12－1 足利女
栃木女 不戦勝 馬頭

【順位】①栃木女5勝1分②国学院栃木5勝1敗③小山城南4勝1分④佐野女3勝3敗⑤馬頭⑥足利商⑦足利女

国立、江東商の好調目立つ

▼東京都高校春季大会（5月）

▽男子準々決勝
東村山 19－9 豊多摩
国立 13－6 早大学院
中大附属 24－6 国分寺
明星 15－7 雪ケ谷

▽同準決勝
国立 9－4 東村山
中大附属 16－6 明星

▽同3位決定戦
明星 13－9 東村山

▽同決勝
国立 9－8 中大附属

▽女子準々決勝
小岩 4－1 神代
井草 3－1 桜水商
小平 5－2 久留米
江東商 12－1 藤村

▽同準決勝
井草 7－3 小岩
江東商 11－8 小平

▽同3位決定戦
小平 3－0 小岩

▽同決勝
江東商 7－3 井草

教員団、巧みに勝ち抜く

▼第17回宮城県総合選手権（4月　宮二女商）

▽男子準々決勝
宮城教員団 20－18 東北学院大
仙台育英商 17－7 古川工商
古川工ＯＢ 12（延）12 宮城教大
7ＭＴポイントで古川工ＯＢの勝ち
仙台商高 13－9 仙台高

▽同準決勝
宮城教員団 20－17 仙台育英高
仙台商高 17（延）13 古川工ＯＢ

▽同決勝
宮城教員団 22（11－3、11－8）11 仙台商高

▽女子1回戦（いずれも高校）
涌谷 17－2 塩釜女高
古川商 12－6 祇園寺高
宮城二女 11－2 宮城三女

▽同準決勝
涌谷 12－4 一迫商
宮城二女 8－7 古川商

▽同決勝
宮城二女 10（4－4、4－4、…、1－0、1－1）9 涌谷

深谷女、順調な出足

▼埼玉県高校学徒総合体育大会ハンドボール競技（5月・浦和市高）

▽男子準々決勝
川口工 17－2 浦和西
春日部 15－7 菖蒲
浦和南 16－2 秩父
浦和市立 13－7 聖望

▽同準決勝
川口工 16－6 春日部
浦和市立 12－7 浦和南

▽同3位決定戦
春日部 12－8 浦和南

▽同決勝
川口工 12（5－4、7－4）8 浦和市立

▽女子準々決勝
深谷女 5－1 行田女
川口女 3－1 熊谷商
浦和西 7－4 聖望
浦和市立 11－5 浦和南

▽同準決勝
深谷女 5－1 川口女
浦和市立 8－5 浦和西

▽同3位決定戦
浦和西 5－4 川口女

▽同決勝
深谷女 14（8－0、6－3）3 浦和市立

男子は氷見勢強し

▼富山県春季選手権（5月・小杉高）

▽一般男子1回戦（1試合）

富山大 13－12 二上OB

▽同決勝

氷見ク 21（12－6、9－4）10 富山大

▽高校男子準々決勝

氷見 11－7 小杉

日大高岡 6－4 富山東

富山商 11－10 大沢野

高岡商 21－7 富山

▽同準決勝

氷見 19－10 日大高岡

高岡商 22－8 富山商

▽同決勝

氷見 13（5－5、8－3）8 高岡商

▽女子1回戦（3試合）

富山女 16－3 高岡

高岡女 15－0 清光

小杉 8－2 富山北

▽同準決勝

有磯 4－3 富山女

小杉 3－1 高岡女

▽同決勝

有磯 7（3－2、4－2）4 小杉

霞会、曙ブレーキ破り初優勝

▼埼玉県社会人春季選手権（5月浦和市高）＝男子のみ

▽1回戦（1試合）

大宮ク 9－7 桐球会

▽準決勝

曙ブレーキ 21－7 皇山ク

霞会 17－12 大宮ク

▽決勝

霞会 18（11－9、7－6）15 曙ブレーキ

投書欄　明日への提言

再び東アジアのハンドボールについて

日本ハンドボール協会もJOCの意向を汲んで台湾とは公式な付き合いをしないと表明した。しかし昨年ミュンヘンの会議で台湾がIHFに正式加盟し、香港・インドも活動を本格化したと聞く。然るに日本協会は果して香港・インドに対してどれだけ働らきかけをしているのか疑問だ。吾々ハンドボールマンの友達は中国・台湾といったことではなく、それらの国々でハンドボールを発展・進歩させるために努力している人達ではないのだろうか。

台湾は香港へこの夏3チーム程送り込んで普及をはかる計画と聞く。

日本協会が本当に台湾と手を切り、中国と接近するつもりならば、台湾が行なっている以上に香港やインド、さらにはマレーシア、フイリピンまでも手を伸ばし普及に努めるべきではないか。台湾に対してもこれだけ一生懸命にやっているのだから、公式なことは別にしても審判や技術的な援助だけは続けるべきだと思う。

日韓問題ですら手こずっている現在の協会には、アジアに対する施策は無といってよい。

さらに台湾ではモントリオール予選を新らしくできる体育館へ招致し開催する意向を持っている。その時になってからあわてないよう。もっとしっかりしたアジア対策を望んで止まない。

【愛知・田中滋章】

中学大会記録

◇和歌山県・春季大会（4月・参加男7、女7）

▽男子準決勝

鳥屋城 8－4 岩出

岩倉 12－9 打田

▽同決勝

岩倉 6－3 鳥屋城

▽女子準決勝

岩出 12－4 粉河

白浜 5－3 鳥屋城

▽同決勝

岩出 16－2 白浜

◇名古屋市・春季大会（5月・参加男20、女12）

▽男子準決勝

笹島 12－6 名南

桜田 9－5 東港

▽同決勝

桜田 13－11 笹島

▽女子準決勝

桜田 9－4 明豊

笹島 13－4 名塚

▽同決勝

笹島 12－7 桜田

北海道協会新役員　北海道協会はこのほど新役員を次のように決め発表した。

▽会長　徳中康満▽理事長　石切山稔治（札幌南高）▽副理事長宮崎光市▽審判部長　吉沢正登▽普及部長　八重樫英治

▽事務局所在地　札幌市中央区南8条西2丁目札幌星園高校気付

愛媛協会理事長代わる　愛媛協会は新年度理事長に河本武夫氏を選出したほか、新執行部を次のように決めた。

▽会長　梶浦暲一▽理事長　河本武夫▽常任理事　千葉秀雄、山崎幸夫、玉田貢、野中聴▽事務局松山市木屋町4丁目151・松原久士氏気付（電・43－三八一六）

石川協会新役員　石川協会はこのほど48年度役員名簿を発表した。主な役員は次のとおり。

▽会長　油谷外郷▽理事長　若山博▽審判担当常任理事　村井輝邦中村博▽会計担当常任理事　長永勇、谷　直人▽事務連絡者　大村孝則（金沢市工高）

熊本協会新事務局　熊本協会事務局の新住所は次のとおり。

熊本市黒髪3丁目12の16　九州女学院・島田秀四気付

大阪協会も変更　大阪協会は事務局を次の住所に変えた。

豊中市上野西2丁目5の12　大阪府立豊中高校・山本孝男気付（電068－54－一二〇七）

編集後記

□……藤本強氏の編集長辞任はそれが勤務の都合と判っていながらもあまりにも残念だ。私だけの感慨ではなく、多くのかたから「機関誌は続けていけるのですか」という心配の声をいただいている。藤本氏ほど惜しまれて執行部から退いていく人を、私は知らない。

□……藤本氏が、本誌の声価を高めたのは敏速な報道と健全な批判精神を存分に盛りこんだ点にあったと思う。同時にそれが競技団体の機関誌としてはめずらしい〝個性〟を誇り読者の支持につながったのである。彼をしのぐ後任者は簡単には見つからないであろう。当分のあいだ総務企画部が編集を代行することになったが藤本氏のともした〝伝統の灯〟を守りつづけていくのは容易ではない。藤本氏にはもちろん「編集委員」として名を連ねていただき、忠言、時には原稿をお願いするつもりだ。

□……改めて全国の読者の協力もあおぎたい。ニュース、リポート独創かつ新鮮な提言をどしどし送って下さい。

（S）

日本ハンドボール協会編
『ハンドボール』
第一〇九号
昭和四十年六月七日 第三種郵便物認可
昭和四十八年五月二十五日印刷 昭和四十八年六月一日発行
発行所 日本ハンドボール協会
東京都渋谷区神南一ー一ー一
電話 大代表(467)三一一一
振替東京五八三四八番
編集兼発行人 保坂周助
定価二百円
(年間購読料千八百円)